

がっこうぐらし！ RTA
全員生存END 参考記
録

相感

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

人気に乗っかってRTAするのはがっこうぐらし！

楽しみですねえ、面白いからやってないホモはやってどうぞ。

*この記録は途中からガバにつぐガバ、メガトンリーさんがあったため参考記録となります。

二番煎じどころか薄まって薄いけど流れに乗ったやつは末路を見とけよ見とけよー。

R-18タグ脳死でつけてたゾ、申し訳ナス！　そういう要素はないです（断言）

タグで b i i m 兄貴ではなく b i l m 兄貴になってますがこれは長年の勘違いによるタグ付けなので、恥ずかしさいっぱいですが修正せずにこのまま残します。みんなは人の名前をちゃんと、見よう！（赤面）

目次

	R T A 開始〜パндеミック開始まで	
1		
	屋上〜3階制圧カットまで	15
	3階制圧〜オリチャー発動まで	31
	休憩終わり〜ラジオ姉貴との出会いまで	
49		
	ドライブ〜めぐねえが犬になるまで	
71		
	ラジオ姉貴回収〜三日目終了まで	
94		

RTA開始～パンデミック開始まで

空前のRTAブームに便乗したRTA、はっじまーるよー！

今回走るのは「がっこうぐらし!」、様々なキャラクターと豊富なシナリオ、そしてクソみたいな難易度の戦闘がウリの今流行りのゲームです。

計測開始は先駆者様に習って、「はじめから」を選択してからエンディング後の「つづく」が表示されるまでとします。

「卒業」しても大学生編が始まるからね、つづくのは当たり前だよなあ？

キャラクターは……フヨウラツ！ ランダムガチャイクゾー！

キャラクターなんて時間かかる行為、RTAでは必要、ないです。

目標はSZKちゃんですがランダムなためここで膨大なりセゲーが始まります（1918敗）

先駆者兄貴はSZKちゃんをレアキャラと言っていました、それもそのはずこのゲーム、キャラクターして得られる初期技能が重要になります。

通常プレイならば神スキルになるものも、RTAでは屑スキルになるものも多いです

（工作系）

スタミナ系はいいぞお、ジョジイ……回避系もだ。

……………どぼじで男キャラなおおおおおおお！！！！

失礼、取り乱しました。

？
そういうえば視聴者様方は、このRTAで女主人公が多いと思ったことはありませんか？

ホモだから当たり前だよなあ？ とか申し訳ないがノンケはNGと思った人はクツキー☆を114514回リピート再生してホラ。

ぶつちやけノンケはNGがあつてるんですけどね初見さん。

このゲーム、友好度、愛情度という数値があり、愛情度MAXで恋人になることが出来る来ます。

通常プレイで好みのキャラとイチャコラしてえ!! とソツコーで愛情度をMAXにしてイチャコラに勤しんだり、最後の最後で死んで泣き顔を見た兄貴姉貴たちも多いでしょう。

実はこのゲーム、異性間だと愛情度が上がりやすいんですよ。

なんの問題ですか♂ なんの問題もないよね……これがあるんですわ。

修羅場ア……ですかねえ(ジャガー構文)

ハーレムプレイでよくあるアレです、ハイ……。

愛情度が高いキャラが複数いると修羅場というイベントが発生します。

「命かかっている土壇場ダルルオ!! 命かかっているからやっつてんだよ!!! (開発者インタビュー原文ママ)」

まあ、原作ではありえない、キャラたちが武器片手に大乱闘する姿は見ものではあるんですが(当然バッドエンドルート)

RTAではスキルポイントの取得のため、積極的に彼らと戦うために意外と愛情値が稼ぎやすいというデータがあります。

修羅場が発生すると最悪、リーさんがエンカウントするだけで包丁刺してDEAD ENDさせてくる、どこぞの絢爛舞踏ゲームキャラみたいなことになります。極まった人だとこの状態からクリアさせるとかいうマゾプレイするとか聞きましたがマジですかねえ?

話が逸れ過ぎましたね、上記の理由からノンケはN……おっファツ!!

君は行方不明になっていた「本田紅葉」くんじゃないか! RTAイクゾー!!

彼は優秀なサバイバーです。スキルに「忍者」を持っています。

アイエエエエエ!? と思ったあなた、彼は忍者であってニンジャではない、いいね?

アツハイな方は彼で通常プレイするとかかなり楽にクリアできます。

「忍者」ですが「暗殺」、「発見」、「聞き耳」、「工作」の複合スキルになってます。強い！絶対に強い！と思うじやろ？彼はデメリットスキルも持ってます。

「寡黙」、口数が少ないため会話によるSAN値回復なしや一部イベントが短縮されるという効果があります。

ただしRTAではこのデメリットはないに等しいです！それならばやるしかねえ！！

技能ポインヨはすべて持久力にまわしてイクゾー！

OPはスキップできないため等速で皆様にお見せします。飽きた？俺も見たんだからさ（893敗）

まあ、OP中に今回のRTAのチャートをちゃんと思えます（HHME）

王道を行くう、全員生存ルートですかねえ……。

先駆者様をリスペクト……ではなく、これが一番安定してるチャートだからです。

やつば数は力なんやなって、拠点防衛とか食料回収やらは一人だと狂いそう、狂う！と忙しくなるのである程度自動でやってくれるキャラが増えるのはタアイム的にもうまあじです。

そろそろOP終わりますね、開始位置はランダムなので下手すると下校中ってこともありますあります。

してましたね。ただ幼馴染は敗北者じゃけえ……。

ちなみにランダムで幼馴染につくのは珍しいです、こういうのもあるからちやーんと見なきゃいけないのになあ。

ただリセットに疲れたので続行します（RTAの屑）

ここで重要なのはリーさんの言葉には絶対服従することです。

ブッチツパしてもいいですが、不信感を持たれて思わぬところでメガトンコインするのがリーさんです。

発売当初、お姉さん属性に惹かれた奴らの阿鼻叫喚は記憶に新しいですね（当事者）

リーさんの畑仕事を手伝います。若干体力が削れますが、救済処置なのかアウトブレイクのイベント後に全回復してます。

あつ、そうだ（唐突）、へい、リーさん今育ててるものはなんだっけ？

「えっ？ 何ってあなたも一緒にやったでしょ？」

なんとここで育てていた野菜を選べます。

ああ〜いいつつねえ、迷わずキャベツとカボチャを選びましょう。

先駆者兄貴はサツマイモを積もってましたが、カボチャもいいゾ〜これ（先駆者の努力を顧みない屑）

わっせわっせわっせ（少年屋上菜園中）

「……ねえ、土弄って暮らすのもいいと思わない？」

選択肢で「嫌でござる」なんて選ぶもんなら、リーさんのSAN値がぐぐーんと下がって、最悪アウトブレイク後に屋上から飛び降ります（1敗）

無難な選択肢を選びましょう。幼馴染キャラは愛情度が上がりやすいのでルートにはいちゃ…つたあ！ なんてことになればたあいむが死にます（真顔）

「……考えておく」くらいならママエアロ。

「ふふつ、言質取ったわよ？」

怖いなあどづまりすとこ。

でもリーさんがお嫁さんとか夜の生活は最高やろな（ノンケの屑）

ここでゆきちちゃんを連れてめぐねえがやってきます。

オツスオツス。

「こんにちは、少し見学させてもらっていいかしら？」

「わあ〜」

ゆきちちゃんが目を輝かせていますが、挨拶だけにしましょう。

序盤は不確定要素が多すぎて、先駆者兄貴たちも阿鼻叫喚になっているので多少はね？

貴重なゆきちちゃんの悠里さん呼びを堪能しつつ、心配そうにやわらかスマホを見てい

るめぐねえに話しかけましょう。ここで話しかけるとかけないのでは、のちのイベントのSAN値減少に変化が出ますので。

「えっ？ ええつとなんでもない、なんでもないから大丈夫よ！」

そしてめぐねえが同僚の先生から電話を受けますので、気付かれないようにスコップを取得しましょう。

忍者ですので片手持ちできる武器には補正がかかるからです。あとシヤベルを先に取得してしまうとくるみちゃんの覚醒イベントがキャンセルされて、最悪死にます（1敗）。通常プレイなら絶望と声優姉貴の迫真ボイスを堪能しましょう。

おっと、校庭から悲鳴が上がりましたね、ほんへ開始です。

「な、なに？」

リーさんが困惑して屋上から校庭を見ようとしますが止めましょう。

絶賛お肉パーティー ブシヤ生肉だらけだよが開催されているので、ここでもリーさんのSAN値が減少します。

幼馴染キャラじゃなければ振りほどかれるので、リーさんの序盤のSAN値を維持したいのであれば幼馴染を選択しましょう。筋肉ゴリラマンでも強制イベントなのか振りほどかれます（10敗）

「様子を見てくる」と言って、屋上から出ます。

「忍者」ですので若干移動スピードが早いため、邪魔されることなく屋上から出られます。

りーさんのSAN値が心配ですが、ここでは経験値のほうが大事です、イクゾー!!
「ま、待って!!」

屋上から出るとくるみちゃんと覚醒素材先輩が駆け上がってきています。

「ツツツ?!? なにしてんだ、早く逃げろ!!」

「早く行け、ここは食い止める」と選択肢、くるみちゃんと覚醒素材先輩を行かせましょう。

くるみちゃん覚醒イベントで全員のSAN値が下がりますが、なんとかかります、してみせる! (強者の風格)

初、彼らとの戦闘です……が実はここ無限湧きなんですよねえ。

いや解析班によると限度はあるらしいですが、全滅させるには四時間ほどかかるのとあまりの容赦のなさで全員の好感度が0になります。

なので規定のスキルポイントが得られたら撤退し、イベントで次の日を迎えます。見どころさん!? があまりないので今回はここまでにいたします。

私の幼馴染は忍者だ、と言ったら笑われるだろうか？

本田紅葉。寡黙で何考えてるかわからないと言われて、私以外とはあまり喋らない彼。

ただ話すと優しい人だというのはわかる……わかりにくいけどね。

いつもどおり彼と妹と一緒に登校して、いつもどおり彼と授業を受けて、いつもどおり彼とご飯を食べて、いつもどおり彼と園芸部をして過ごす。

冗談半分本気半分で将来のことを話してみた。

「……考えておく」

やったとガッツポーズをする。

彼の考えておく、は「やってもいい」と同義だということは長い付き合いでわかってる。

つまり将来は一緒にいてくれるということだ。

るーちゃんも彼のことを気に入ってるし、三人で暮らすのも悪くない。そう思ったときに邪魔が現れた。

佐倉先生とゆきちゃんと呼ばれた生徒だ。

せつかく彼と二人きりになれるように、他の部員には辞めてもらったのに見学なんて……ただ変な噂が立っても困る。

それに私と彼の育てた野菜を褒めてくれるゆきちゃんが悪くない。

……視界の端で佐倉先生と彼が話すのを見るまでは、だけどね。

「……大丈夫ですか？」

「えっ？ ええつとなんでもない、なんでもないから大丈夫よ！」

珍しいどころの話ではない。彼が誰かと話すなんて一年に数度あるかないかだ。

佐倉先生が綺麗だからだろうか？ あのとでも二十歳を超えた女性とは思えない童顔に巨乳、クラスの男子たちもいいと言っていた。

……スタイルなら負ける気がしないのにッ。

「きゃあああああああああ!」

甲高い悲鳴が上がった。

なんだろうと声のした方に行こうとすると、彼が肩を掴んで私を止めた。

「行くな……血の匂いがする」

彼の真剣な表情に私は息を飲む。

血の匂いと彼は言ったか？ リアル忍者である彼がそういうのなら『そういうこと』なんだろう。

見たいという好奇心はなくなり、ただならぬ様子を感じ取ったのか震えているゆきちゃんを抱きしめる。

「……様子を見てくる」

「ま、待つて!!」

瞬間移動でも使ったんじゃないかって言うほど、彼は早かった。

止める暇もなく、私や佐倉先生の横をすり抜け、音もなく屋上から出ていく。

追いたい気持ちはあった、けれど彼が本気になる事態が本当に起きているなら足手まといでしかない。

数秒後に扉の向こうから怒鳴り声が聞こえ、扉を叩く音が聞こえた。

佐倉先生が確認しに行つて、知り合いの声だったのか扉を開けて迎え入れる。

「恵飛須沢さん!」

「先生、この人を頼むツ!! 私はあのバカを止めてくるツ!!」

血だらけの男子生徒を床に下ろすと、恵飛須沢と呼ばれた女子生徒は扉を開けようとするが私は肩に手を置いて質問する。

「今はここから動かないほうが良いわ。それに行つたのは私の……その、と、友達よ!

大丈夫、鍛えてるからよっぽどのが無い限り大丈夫よ!」

「そのよっぽどのが起きてるんだつて!!」

錯乱しているのか、一向に落ち着かない恵飛須沢さんに苛立ちを覚える。

私だって好きに行かせてるわけがない、けど本当にどうしようもないなら私が行っても邪魔になるだけ……ッ。

「下はもうダメなんだよ、もうあいつらが……」

「あいつら……っ？」

彼女の言葉が引つかかる。

あいつら？ あいつらとはなんなの？ そんな考えが頭を巡ったときに、さつきまでうずくまっていた男子生徒がムクリと立ち上がった。

「せ、先輩？」

返事もしない彼はゆらゆらとおぼつかない足取りでこちらに向かってくる。

表情が見えたとき、私は凍った。

人間の顔じゃない、もつと違うナニカの顔。

アレはなんなの……？

一步一步近づくと彼に、恵飛須沢さんは何も出来ずに立っただけだった。

ソレは恵飛須沢に手を伸ばしながら……いや、違う、伸ばしてきてるのは私にだ。

「悠里さんッ!!」

ゆきちゃんの声が遠くに聞こえる。

屋上～3階制圧カットまで

投稿初回からガバツたRTA、はっじまーるよー。

前回の続きからですが……経験値、うまそうやなほんま。

戦闘ですが、決して一対一を崩さないようにしましょう。

筋肉ゴリラキャラではないので、持久力あるけど横槍でガブリとかされたらそこでリ

セットです（110敗）

「合気道」のスキルがあれば無双プレイもやれるので、通常プレイなら取っておくとい
いづくこれ。

戦術ですが……突っ込め、突っ込めっていつてんだYO!!

RTA放棄かと思う人もいるかも知れませんが、これであってます。

屋上に続く階段ですが、くるみちゃんがごちそう先輩を連れて行ったおかげでゾンビ
トレイン状態となつているため、下手にここで応戦すると死にます（10敗）

応戦するなら三人ほど用意して、モップでチクチク階段下へ落としてください。なん
とかなります、ならなかつたら？ リセットゾ（真顔）

Foo→ 気持ちいい!!（ゾンビなぎ倒し）

階段下にスパーヒーロー着地してなき倒したあと、折り重なって身動きできない彼らに忍さ——ごほん、暗殺を叩き込みます。

期待値は3体ほどですが……やったぜ、なんと四体殺れました。

その後は全力で逃げます（ガチ逃走）

逃げたら、アイテム回収も兼ねて教室を巡りつつ彼らの足を狙って転倒させていきます。

転倒させると一定時間、暗殺が狙えますので序盤のスタミナでも十分無双できます。

序盤詰まつてる人は、たぶん頭潰さなきや死なないと思ってる兄貴姉貴が多いと思うので足を狙って転倒、暗殺か追撃が鉄板です。全員、シャベル姉貴みたいなゴリラじゃないから序盤は中々辛いねんな。

運がいいとここでチョーカー姉貴と出会えますが……ダメみたいですね。

アウトブレイク初期でここでエンカウトすると、屋上に行けと言うだけで合流できるんですが、ママエアロ。

大体三十四匹ほど狩れば2レベルほど上がるので、そこで屋上に帰還します。

~~~~ニンジヤ無双中~~~~

ぬわああああああああん疲れたもおおおおおおん!!

ひたすらに転倒からの暗殺するだけの作業ですが疲れます。



いしてるし!?

私知らない!! (錯乱)

……あつ、思い出しました。

りーさんに異性幼馴染がいてなおかつ好感度が一定あつて、害意がある男性キャラに触れられると覚醒りーさんになるのを。

覚醒素材先輩ですが、くるみちゃんを狙うように設定されていますが、位置取りが甘い  
と他のキャラを狙います。ここでもめぐねえが食い殺されて全滅なんてルートもあり  
ます (一敗)

ランダム要素が多いゲームですが、こ (の) フ (ラグ) 管 (理) 無 (理) ゾ。

なーんで本走に限ってガバるんですかねえ (チルドレン特有の屑運)

とりあえず二人を落ち着かせましょう。未覚醒シャベル姉貴は戦闘が出来なくなりますが、工作面では優秀です。積載量が違いますよ、余裕の馬力だ。

というか真面目に言うところまで殺し合ったら、ゆきちやんとめぐねえが自殺して強制的に「二人だけの学園生活」ENDです。

……みんな? 説得コマンドが出ないんですが、すいませえーんKNSTですけど  
まあだ時間かかりますかねえ?

忍者、どうにかしろ、まじで。

あつ、「寡黙」スキルのせいで説得コマンドが出ないのか、H A H A H A H A ……ああああああああああああああ、ふーぎーけーるーなー。

詰んじやう、詰んじやうううううううううううううううう!!

…フウー！ スツキリしたぜ。

初っ端から叫んでばかりですが私は元気です。

リカバリー案は既に見つかったぜ！（なおオリチャーな模様）

「紅葉!」

「お、お前!」

ハクサイかけますねえ（お水バシヤー）。

死んでる覚醒兄貴先輩の体を洗い流して、着ているワイシャツで綺麗に磨きます。

ワイシャツが一個駄目になります、男は度胸、なんでもやってみるもんさ。

綺麗になった踏み台先輩の脇に、濡れたワイシャツを捨てると呆然としてる四人の脇を通過してブルーシートを取ります。

それを先輩にかけてと選択肢で「（無言で合掌）」と出るため、選択します。

しばらくするとくるみちゃん、膝から崩れ落ちて泣き出すので、放って合掌を続けましょう。

アニメと同じで、泣きながらゆきちゃんが抱きついて二人して泣くので、こっちもな、

泣きますよ……泣けるかああああああ!!

完全にロスですよ! ブルーシートだって貴重な物資な上、ワイシャツも防具なおおとおお!! 今、素肌! 半裸の男が男女比1:4の中とか好感度がイグウウウウウウ!

ああああああもうやだああああああ!! ……ただRTA続けるんですけどね。

「……優しいんですね、本田くんは」

あ、あれ? めぐねえがこつちの手を握ってくれました。

血まみれで事前好感度無しなら、ここで怯えられるのが先駆者兄貴からわかるんですがなんのフラグもなしに握られるのはんにやぴ。

感動的なBGMが流れて、泣き続けるくるみちゃんとかゆきちゃん、で半裸の男子生徒の手を握ってるめぐねえ、シャベルを持って校庭をにらみつけるりーさんとか……なにこれ?

とりあえず暗転してるってことはセーフってことだな! (ガバガバ理論)

とりあえず試走も兼ねてこのルート楽しみますよ楽しみ楽しみ。RTAは楽しんでなきややってけないってソレ一番言われてるから……。



おはよーございまーす!!

昨日のガバ運を取り消すために……飯にしようや。

幸いにしてライターは持ってますねえ! これも不良系が持っているのでドロップを狙いましょう。

容器は科学実験室から持ってきたピーカーとかで代用します。

鍋は職員休憩室に運がいいとあるんで祈りましょう(20敗)

序盤から料理するチャートを組みたい場合、3Fに何かあるのかなのか、それと回収するものは決めておきましょう。学生鞆に入れられるのは限られてるし、重量オーバーで食われます(15敗)

「料理」レベル1では作れる料理などたかが知れてますが、温かいものどうぞすると追い詰められたときには染み渡りますねえ。強運チャートだどこで調味料を入れたりしますが、今回はないです(無慈悲)

最低でもポケットナイフは3本ツモりましょう(迫真)、ツモらなければリセットです(回数不明)

今回はカボチャのスープ(自然風味)を作ります。

切つて、煮て、ピーカーに入れただけですが、序盤はこれでもSAN値が回復しますねえ!

「……………はん……………」

よく眠れたかい？（宿屋のおじさんムーブ）

こういうときに真つ先に目を覚ますのはゆきちゃんです。ニッコリ笑顔を……………出来ないですよねえ。意外と知られてないというか書かれてないんですが「寡黙」は表情があまり変わりません。

だからRPでは役に立つんですがねえ。

「お汁作ったの？」

選択肢はろくにありませんが無難に「食べ」を選択。

ちなみにここで謎肉を入れて、ゆきちゃんのSAN値直葬するやついるらしいですよ

（一敗）

警戒心が強いゆきちゃんですが、おそろおそろ手を伸ばして、ゴクリと一杯。

「……………温かいね」

ああ~~~~パパになるんじやあ~~~~。

PC版だと業が深いですがゆきちゃんとパパ棒プレイできるらしいのでロリコン兄貴はプレイして、どうぞ。

ちらほらと起き出してきた面々にスープを渡します。

ここで重要なのは自分の分は作らないこと、男は我慢しとけ……………ではなく、こんな状

況でも私達を氣遣つてくれるんだと好感度アップします。チョロいぜ！

ただここでシヤベル姉貴改め、未覚醒くるみちゃんのフオローをしましょう。覚醒してると開き直れますが、未覚醒状態だとか弱きゴリラと化すので。

「……昨日は、ありがとな。先輩を……先輩を、せん……ぱい……」

声押し殺して泣き始めるくるみちゃんはたまらねえぜ。

……コホン。ここでの選択肢はそう、ですねえ……あつ、無言しかねえや。

とりあえず泣き止むまでくるみちゃんのそばにいきましょう。

タイムが死ぬ？ オリチャー発動してるから死んだよ（死んだ目）

ちなみにこのままの状態を維持して、ギリギリ正気を失わせるか失わせない境界で愛

情度上げると「幻の先輩」ルートに入りますので、やってない兄貴はやれ（豹変）

「なんか、言えよ……優しい言葉かけるとかさ」

「……かけてどうなる」を選んどきましようか。

この状態のくるみちゃんは、愛情度が上がりやすいです。依存先を探してるといえばソレまでですが。

ビクリと肩を震わせて、泣くくるみちゃんを尻目に、ホモは往く（王者の風格）

本来のチャートに戻りましょう。

まずは3階の制圧です。とりあえず三日目までに3階の制圧を終わらせておけば

チョーカー姉貴が見つかります。男なのに女子トイレはいるとかいかんでしょ。

「わ、わたしもいきます！」

「私もよ」

駄目だ（コマンドー）

ぶつちやけ3階は序盤に制圧する予定なのか、難易度が低いです。

しかしメンバーが覚醒リーさんと要介護キャラ二人は危険が危ない。

くるみ姉貴？ やつは油断さえなけりや基本感染しません、試しに一階に突っ込ませ

ましたが生きて帰ってきました、なんだあの異能生存体!?

寡黙キャラなので説得できるか、不安ですが……おつ、ラッキー。

「お前はここを守れ。やれるのはお前しかいない」

幼馴染設定だからですかね、意外と喋ってくれますねえ！

渋谷と言った様子ですが、リーさんは従ってくれます。これで嘯まれて帰ってきたら

心中ENDになるので気をつけましょう（1敗）

3階無双は昨日と同じなのでカットするため、キリがいいのでここまでにします。

\*\*\*

シャベルを下ろす、音がする、下ろす、音がする、下ろす音が……。  
「もういい!! もういいだろお!!」

誰かが私にめがけてタツクルしてくる。

泣きながら、シャベルを握りしめ、奪おうとするので抵抗した。

「ツ!!! 先輩は、先輩は死んでる、もういいって言ってんだろツ!!!」

「邪魔つ、しないでっ!!」

体をバネに彼女……恵飛須沢さんを跳ね飛ばす。

運動は得意ではなかったけど、こういう状況だからかしら、火事場の馬鹿力があるみたい。  
「……………」

佐倉先生もゆきちゃんも突然の出来事で何をしたら良いのかわからないのか動かない。  
冷静になってきた頭でどうするか決める。

殺す? いいや駄目、私と彼が生き残るためには他人が必要。

ただ恵飛須沢さんは……。「まともじゃない」。

最悪の状況を考えて……ここで……。

「ほ、本田くん!?! ヒツ——」

佐倉先生の声に驚いた私達は、屋上の入り口を見る。

真っ白なワイシャツを真っ赤に染めた彼がそこにいた。

冷たい目線で私達を見て、次は倒れてるアレを見る。

ただ見られてるだけなのに動けなかった、蛇に睨まれた蛙というのは、こういうことを言うのだろうかかと半ば現実逃避気味に考える。

彼は後ろ手で、屋上の鍵を閉めると音もなく歩き……服を脱いだ。

「は、はあっ!?!」

恵飛須沢さんが叫ぶが、私は脳内フォルダに彼の裸体を激写するのに夢中だった。

服を脱いだ彼が向かったのは水道。驚く私達を尻目に体についた血を洗い流し、近くにあったバケツに水をためる。

するとそのバケツを倒れているソレにかけた。

「な、何をする——へっ?」

激高した恵飛須沢さんだったが、口を開けて放心する。

私達も同じだった。

彼は血まみれのソレを服で拭っていた。

見る見るうちに綺麗になっていくソレを見て、彼は一息ついたと思ったらブルーシートをかけて……手のひらを合わせて合掌し始めた。

「お、お前……」

「……………」

身動きすることもなく、合掌する彼を見て私は手に持ったシャベルを落としました。

ああそうか、ソレじゃない、私は人間を殺したんだ、それを理解して俯く。

恵飛須沢さんもようやく現実を飲み込めたのか、膝から崩れ落ちて泣き始める。ゆき

ちゃんが飛び込むように彼女を抱きしめると一緒になって大声で泣き始めた。

どうしたら良かったんだろう、そう思いながら佐倉先生の方を見る。

「……………優しいんですね、本田くんは」

……………ああ、油断なんてするんじゃないかった。

彼を狙うやつなんてどこにでもいるってことを忘れるところだったわ。

\*\*\*

一晚経って、アレは夢なんじゃないかって思った。

嫌な夢で全部が全部、あたしの悪趣味な夢で、明日からは代わり映えのしない毎日が

続く。

そう、そんな都合のいい夢。

「……あつ」

あるわけがなかった。

硬い床に、ブルーシート……昨日のは夢じやなかったと嫌でもわかる。

吐きそうになって蹲る。今でも思い出せる、先輩が園芸部の人に襲いかかって、それで先輩の首にシャベルが――。

「……食べ」

「へっ?」

仏頂面の半裸のやつがあたしの思考をストップさせ……あわわわわわっわあわ。

「ふ、ふ、服を着ろよっ!」

「ない。だから食べ」

あたしの目の前に突き出されたのは、ビーカーの中に入ったカボチャ……のスープだ  
と思う。

不格好で匂いを嗅いで見ても、カボチャな匂いしかない。

「これだけか……あつ」

こいつの後ろにあるプランターを見てわかった。

園芸部が育ててたカボチャを煮てくれたんだと。食料なんてこの状況にあるわけが



なく、なんとか用意してくれたのもわかった。

あんな状況で、ピーカーとか鍋とか確保してきたこいつが微妙に恐ろしいけど無いよ  
りかはマシだろう。

「てか不格好なカボチャだよな、切ったのは誰だよ」

「紅葉くんよ」

素っ気なく言つてスープを啜つたのは、昨日のアイツ……てか目の前のこいつは紅葉  
葉つていうのか。

にしてもこいつ、熱くないのか？ ピーカー手に持ったままあたしの目の前に突き出  
しっぱなしだし。

「熱い」

「早く言えよ!?!」

慌てて持つて、水を啜る。

のどが渴いていて、水分が欲しかった……ツツツツツ。

「あつっう!」

「当たり前でしょ、頑張った彼のご飯に文句つけるからよ」

フツとバカにしたように鼻を鳴らす園芸部に腹が立つが……作ってくれたやつは  
あたしが受け取るまで、ずっとこれ持つてたんだよなと思うと怒れなくなった。

もちろんスープ自体は何も味がしない、いや多少はカボチャが溶けて美味しいけど現  
代食に慣れたあたしの舌はもつと刺激がほしいという。

けれども腹ペコだったのと温かいものだったせいか、あたしたちは無言でおかわりを  
して食べきってしまった。

気になるのはあたしが食べてた間、こいつはずーつとあたしの側を離れなかった。

……本当は嫌だけど、それでも心配してくれてることくらいはわかった。

ただ、こいつとあの園芸部員は友達みたいだし、その友達と喧嘩しないか心配なのか  
もしれないけど。

落ち着いたので……紅葉に感謝の言葉を伝えて見ようと思つて口を開けた。

「……昨日は、ありがとな。先輩を……先輩を、せん……ぱい……」

ポロポロと涙が溢れる。

昨日アレだけ泣いたのに、まだ泣き足りないのはあたし自身驚いた。

泣いてる最中に、まだ紅葉はあたしの側にいた……こいつ、なんか言えよ。

「なんか、言えよ……優しい言葉かけるとかき」

「……かけてどうなる」

ぶつきらばうにそう答えた、アイツの顔は……少し悲しそうに見えた。

### 3階制圧～オリチャー発動まで

りーさんがクソやベー地雷キャラだと思われても、そのとおりと返すしかないRTAはーじまーるよー！

今回は倍速中の3階掃除中に、幼馴染ルートの利点と欠点を軽くお話します。

まず利点ですが、特定キャラの好感度が上がるためそのキャラに不都合な行動を取り続けなければ、まずハブられたり、彼らの群れに出荷よーなんてことはありません（な）  
いとは言つてない）

ここで高校編の幼馴染ルートの各キャラの簡単なボーナスを書きます。

ゆきちちゃん：全キャラの初期好感度の上昇

クルミ・クルミ：「体力」「筋力」「持久力」ボーナス、戦闘スキル一つランダム取得

りーさん：家庭菜園の初期配置決定、菜園で育てた野菜のボーナス

めぐねえ：防衛時に全能力アップ、回避系スキル一つランダム取得

エロガーターベルト（みーくん）：「知力」ボーナス、工作スキル一つランダム取得、初期スタートがシヨツピングモール

圭ちゃん：「直感」ボーナス、索敵スキル一つランダム取得、初期スタートがシヨツピ

ングモール

チヨーカー姉貴：スキル「ムードメーカー」取得、全キャラとの好感度に+補正と一になる場合、一定確率でフォロー。開始地点が校内のどこか（ランダム）

正直RTAではくるみ姉貴一択ですが、通常プレイではチヨーカー姉貴がおすすめです。サバサバして、他幼馴染ルートのキャラと違って、他キャラと恋仲になっても笑って祝福してくれます（なお裏で号泣してる模様）。ただ彼女と恋仲になったら、二股は止めましょう、絶対にバレて「血と嫉妬の狂乱」ENDか「ずっと一緒だよ」ENDになります（一敗ずつ）

ここまで読んで兄貴は幼馴染ルートでは利点ばっかやんけ！　と思うでしょうが、コレは製作者の罠です。

欠点として幼馴染キャラは主人公、つまりプレイヤーキャラに執着します。

特にゆきちちゃんルートではそれが顕著なため、幾人ものホモたちがあのピンク色の悪魔にメガトンナイフされました（敗北数計測不能）

RTA的に不利ですが、フォローしてくれるキャラがいるというのはありがたいんですよねえ。

コメントでも指摘がありました。無双しすぎるとキャラにドン引きされることがあります。そら（元人間を躊躇なく死体にすれば）そうなるよ。

ただそこがRTAプレイヤーとしての腕の見せどころさん!? なので、みんなも通常プレイ、キャラクリランダムプレイしよう!

以前も話しましたが3階は、序盤で制圧を想定してるおかげかかなり制圧が楽です。無限湧きではないため、教室ごとに「聞き耳」をして大まかな数を把握、釣りだして転倒、暗殺コンボで確実に倒していきます。スタミナが不安であれば、屋上に続く階段で休息しながら戦いましょう。

二日目は3階を制圧して、バリケード設置できればコレで万事OKだわ(チャー研) このとき掃除ロツカーなど、一人隠れられそうな場所は片っ端から開けておきましょう。

下手に放置しておく、かれらがこんにちは、ようこそリセットへとなるので目をさらにしきましょう(50敗)

おっとそろそろ掃除(暗殺したかれらを窓から投げ捨てる作業)が終わりそうです……なんで等速に戻してるんですかねえ?

「ヒツ……」

おっファツ!? チョーカー姉貴!? 君はトイレに引きこもっているはずのチョーカー姉貴やんけ!!

いや、マズイですよ!? 3階制圧したから軽く60体以上は屠ってる主人公兄貴の格

好は血まみれです。

好感度も愛情度もないチョーカー姉貴がこんな状態みたら……。

「う、うあああああああああああああ!?!?」

あつ、おい待てい(ガチ焦り)

脇目も振らずに逃げるチョーカー姉貴にたまらずメニューを開きます(完全なるガバ)

やべえよ……やべえよ……朝飯食べたから(スタミナ回復ボーナス)。

……ここでオリチャーを発動します!

まずはスキル画面に行き、「投擲」と「ホバク・ジツ」を取得します。

本来なら持久力にガン振りチャートなんですが、誤差だよ! 誤差!! 序盤なので挽回出来ます出来ませう。

そのままメニューを閉じずに、装備画面で適当に投げられるものを選択し、メニューを閉じて「投擲」スキルを使用してチョーカー姉貴の足に当てます。

イヤーツ!!

「ンアーツ!?!」

ギャグみたいな流れですが、忍者をとって投擲すると主人公が喋るようになって当たるとどんなキャラでも上記のような叫び声をあげます。男ならグワーツ、女ならン

アーツと……開発スタッフはヘッズ、はつきり分かんかね。

とりあえずこれでコケるので、再度メニューを開いて適当な紐類のアイテムを選択します。

続いて「ホバク・ジツ」を使用します。レベル1程度の縛りでは簡単に抜け出されませんがRTA走者には問題ありません。

そのまま肩にチャョーカー姉貴を乗せて、ほら（屋上に）いくどー。

「なっ!!? 離せ!! 離せよ!! こんの変態ツ!!!」

ジタバタと暴れるチャョーカー姉貴のせいで、ただでさえ少ないスタミナと体力がガリガリ削られて気持ちがいい（錯乱）

かれらのドロップ品とチャョーカー姉貴を抱えているせいで、重量オーバー状態のため移動速度がウンコ：ウンコ：（罵倒）。さらに一定時間、QTEが発生し失敗するとチャョーカー姉貴が逃げ出してリセットです。

にしてもチャョーカー姉貴、別名シユレディンガールのトイレ姉貴と呼ばれるほどトイレで発見されることが多いのに、二日目、それもトイレから出ていた状態で会うとか割と初めてな経験ですねえ。

本来のチャートだと3階の女子トイレ以外を殲滅して、ゆきちゃん和好感度稼ぎも兼ねて女子トイレを回ってチャョーカー姉貴を探し出すというものでしたが、完全にチャー

トが壊れちゃった、私のチャート……こんなものお!! (オリチャー)

まあ、原作3巻を持つてる兄貴姉貴たちは見取り図を見ていたかどうかはわかるんですが、3階のトイレは端と端の2箇所にあるので行つた先にいなかったらそれだけでロス確定です。

なんとか屋上までつくるとチョコレート姉貴を放り投げます。

そいつは好きにしていよいよ!!

「た、たかえちゃん!」

「ゆき……ゆきなのか!」

泣きながらチョコレート姉貴の胸に飛び込むゆきちゃんはああくたまらねえぜ!

その横でぶつ倒れます (ガバ)

一定時間、限界までスタミナと体力が削れた状態を維持すると気絶状態になります。ちなみに初回では安全地帯まで気絶しない仕様のため安心! ただスタミナが回復しない状態で移動するので、かれらとエンカウントしたらおやつたあいむに突入します (一敗)

気絶のロスタイムは三時間、起きた時間は大体お昼過ぎなので今から必死にバリケードを作れば夜中までには間に合うでしょう。

オリチャーですが不足の自体に備えています、ガバガバなRTAだけど最低限はね?



さあ、視界が開けてきました、行動開始——

ガン  
ン

ん

「あ、起きたのね、紅葉。悪いけど拘束してるわ」

（両腕を縛る紐を見て）なんで？（三代目並感）

（ハイライトオフツのりーさん見て）なんで??（兄貴ボイス）

ナンデ??（NRSボイス）

待つて、待つてクレメンス。百歩譲つてチョーカー姉貴に拘束されるのはわかるけど、幼馴染キャラに拘束されるとかナンデ？

「……一人で無茶しないでよ！ あなたに何かあったら私はどうしたらいいのよ!!」

いや、そのときはリセットすればええし（無慈悲）

……冗談はさておき、ここは素直に謝りましょう。

下手に抗え、最期までをすると精神不安定になって、最悪死にます。

万能ステータスで、頼れるお姉さんですが崩れるときは真つ先に崩れるのがりーさんです。

ただおかしい、こういうりーさんはもうちよい愛情度をあげないとならないはずですが……調査不足ですねコレワ。



いつまでここにいればいいんだろう、帰りたい、お母さんもお父さんも大丈夫だろうか、ゆきははどうしてるかな？ 泣いてるんじゃないか、と現実逃避気味に必死で何かを考えた。

そんなときだ、外で声が聞こえたのは。

「イヤーツ！」

叫び声じゃない、むしろ奮い立たせる勇猛さを感じた。

そつと扉に耳を当てて様子伺う……。

「足払いつ！ イヤーツ!!」

「アンサツ・ジツ!! イヤーツ!!」

「アイエエエエエエ!? アンブツシユ!? アンブツシユナンデ!?」

「アーイイ……遥かに良い……」

打撃音となにかが吹き出る音、そして誰かが走る音、そして声が聞こえた。

何がなんだかわからなかったけど、ただ一つわかるのは誰かが戦っているということだけ。

しばらく音が続き、そしてパタリと音が止んだ……終わったの、かな？

「……ッ」

わからない、わからないけど動かないよりマシだと自分に言い聞かせて、トイレの扉

を開けて、トイレから出て……へたり込んだ。

「な、に……これ」

廊下が血まみれだった。

真つ赤じやない場所はなく、床、天井、窓ガラスといたる所に鮮血が飛び散っていた。むせ返る匂いで、胃の中のを吐き出す。ただ何も食べていないせいか出てくるのは胃液だけだった。

ゴホツゴホツと咳を何度もして、口を拭う。

正直吐き気はまだある、けれどここにいたらやばいそれだけはわかった。

へたり込んでいた足に力を入れて、歩き出そうとしたときぴちやりと血を踏みしめる音が聞こえた。

「……」

「あつ、うわあつ、あああつ」

そこに立っていたのは体全部を赤く染めた男子生徒だった。

右手にはドス黒いナイフを持ち、左手には……何かを引きずっていた。

何かじゃない、人だ。まだ首から血を流してる人だった。

男子生徒はジーツと私を見ると、引きずっていた人を窓から放り投げた。

グシャッと人の体が落ちた音で、私は叫びながらたまたまらずに走り出した。

「う、うあああああああああああああ  
!???!」

「イヤーツ!!」

走り出した私は、足に当たった何かで躓く。

床が血だらけというのも相まって、自分でも驚くくらい滑ってしまった。

まずい、まずいまずいまずいまずい体を動かさなきゃ、動かさないとツ!!

「……」

あつという間に手足を縛られて、身動きが取れない状態にされる。

恐怖で体が動けない、何をされるのかわからない。

そいつは私を抱えると歩く。

「なっ!? 離せ!! 離せよ!! こんの変態ツ!!!」

抜け出そうと動くが、そいつは悠然と歩いていく。

階段を登って、扉を開いた途端、そいつは私を地面に投げる。

痛みのせいで肺から空気がなくなる……ツツウ……。

痛みで唸っていると複数人の駆け寄る音が聞こえる。仲間がいるのかよ、私はどうな

。

「た、たかえちゃん!?!」

その声でハッと顔を上げると、泣きそうな顔でこつちを見るゆきがいた。

「ゆき……ゆきなのか!？」

「よかった、よがつつだよおおおおおおおおお!!」

泣きじやくりながら胸に飛び込んでくるゆきを抱きとめる。

温かいゆきの体に触れて、ドツと感情が溢れてくる、良かった、本当に良かったあ。

視界がブレ、自然に涙が溢れる。お互いに泣きじやくついているとドサリと誰かが倒れる音がした。

る音がした。

私をここまで連れてきた男子生徒だ。

「紅葉ッ!!!」

髪の毛の長い女子生徒……おそらくは三年生の先輩が駆け寄り、必死に体を揺する。

「紅葉くん、ち、血が……」

「くそつ、お前何をしたんだよっ!!」

めぐねえが顔を青くしながら立ち尽くして、ツイントールの体操着のやつが私の

胸ぐらを掴んできた。

ふざけんなッ!!!

「私はただ隠れてて、出てきたらコイツが血まみれで、逃げようとしたら足に何かぶつてきたんだよ!! ていうかお前からこそなんだよっ! 女ばつかで男一人!? ゆきに変

なことしてたらただじゃ——」

「こいつは、一人でアイツラを倒してたんだよっ!! アタシたちのためにっ!!」

お互いに叫んだからか、私達は息を吐きながら見つめ合う。

先に視線を外したのはどちらかわからない、だが舌打ちしながら腕の中にいるゆきが震えていたのに気づいてもう一度強く抱きしめる。

ちらりと隣を見ると、紅葉と呼ばれた男子生徒は息をしてるらしい。脈を三年の先輩とめぐねえが測ってホツと一息ついていた。

……訳がわからない、本当に。

「……その、ごめん、気が立っててさ」

数分後、ツインテール……いや胡桃はそう言つて謝ってきた。

ゆきは私の膝で寝ている、泣きつかれて寝るつてコイツ何歳だよ、ホント。

事情は聞いた。

昨日のアレのあと、めぐねえ、ゆき、紅葉、悠里先輩、胡桃先輩は屋上に退避してたらしい。そして今朝早くから、安全確保として紅葉が3階を『掃除』している最中、私と出会い、そしてこうなったららしい。

「いや、いいよ、私もパニックってたし、悪いのは全部アイツだ」

悠里先輩に紐で縛られている紅葉を指差すと、胡桃先輩は苦笑する。

先輩は「念の為、噛まれてないとは思うけど起きるまでこうしましょう」つて言つて

たけど、なんか目が怪しかったんだよなあ、息も荒いし、どうしたんだろ？

「まあ、目の前に血まみれのナイフ持ちがいたらすっげー怖いよな」

「殺人鬼って見飽きたと思っただけど、映画の中だけだよ、リアルじゃすっげー怖い」

ちよつと漏れたのは内緒だ。

……にしてもたった一人で、アレだけの数のゾン……いや「かれら」を殺すのは、ちよつと異常だと思う。

そう胡桃先輩に言うのと、ものすごい神妙な顔をして頭を抱えたあとポツリと言った。

「忍者、だつて言ったら信じるか？」

「冗談にしては面白くないよ」

「普通なら冗談だつて笑い飛ばせた。けどこの状況でアレだけできるやつが普通とでも？ それこそありえないだろ？」

……忍者、あの漫画やゲームとかで引つ張りだこの？

現実味がない、ないけど今の状況のほうが現実味がないと言つてしまうと認めてしまうような気がしてぐつと堪える。

縛り終えたのか悠里先輩とめぐねえがこちらに歩いてきて、座る。

「とりあえず全部返り血だったわ……どれだけ殺したのよ、彼」

「わかんない、でも廊下はスプラッター映画だよ」



私の言葉にめぐねえが声にならない悲鳴を上げる。

思い出したら気持ち悪くなってきた……。

霧囲気が暗くなるが、めぐねえが頭を振って、パンと手を叩く。

「と、とりあえず下に降りましょう。このままここで生活は出来ないわ」

「……だな、紅葉のかばん見たけど色々入ってた、コレでバリケード作って当面の安全は確保しようぜ」

「当面っていつまで?」

その言葉を言った途端、私はしまったと思うがもう遅い。

全員が項垂れる。

いつまで続くんだろうか? 街からは音が聞こえない、聞こえるのはかれらの唸り声と引きずる音。

警察は? 自衛隊は? スマホには電波も入らない、何もわからない……安全を確保してもその後はどうなる? 助けを待つ? 助けは来るの? 親は無事なのか、心配じゃないのか?

そんなマイナスイな考えがどんどん頭を回っていく。

どうせ助けが来ないなら、いつそこそこから――。

「たかえちゃん……」

「ゆき……？」

眠っていたゆきが、偶然なのか私の手を握る。

……馬鹿なこと考えちゃった、そうだよ、私がここで死んだりしたらゆきはどうなる？ 友達が死んだらゆきはきつと壊れてしまう。

ギョツと手を握り返して、私が前を向くとめぐねえが優しい顔で微笑んでいた。

めぐねえ、そういう顔も出来たんだな。

「めんなさい、変なこと言った」

「いや、いいよ。考えないようにしてたけどさ、なんか大丈夫って気になってた……とりあえずみんなデバリーケードづくりでいいかな？ 夜までにはあいつも起きるだろうし、

改めてそこで今後の方針を決めよう」

胡桃先輩の提案に私達は頷いた。

\*\*\*

「……これは、すごいな」

言葉を失うというのはこういうことを言うのだろう。

赤、赤一色だった。

赤黒く変色し始めてるそれは、かつて私の……いや、私の生徒たちだったものから流れ出たものに違いないと頭が理解した瞬間、体はそれに反応する。

吐き気がこみ上げる、けど吐いちや駄目、これをしたのは私の生徒でもあるのだ。

「めぐねえ、大丈夫か？ 無理なら——」

「いいえ、先生も行きます。これ以上本田くんばかりに負担はかけられないわ」

本田くんが気絶するまで、どこか私は彼がロボットのよう思っていたからだ。

学校でも無口無表情を貫き、私ですら声を聞けた経験は少ない謎の多い生徒。唯一幼馴染である悠里さんと仲がいいことがわかるくらいだ。

噂では、彼女の妹さんとも仲がいいと聞いたが真偽はわからない。

ただ昨日、悠里さんが……殺してしまった彼にしたことを思い出して、考えを改めた。血まみれの彼の体を洗って、ワイシャツで綺麗にするとブルーシートで包んで合掌したのだ。

私はただ怯えていただけなのに、彼は何も言わずに行動で場を収めた。

そして私は、教師なのに彼のことを理解せず上辺だけ見て判断してしまっていた自分を恥じた。

彼だって、ロボットではなく血の通った人間なのに。

「……死体は、どうしたのかしら」

「……窓から捨ててたよ」

柚村さんがそう言ったので、窓の外をちらりと見ると……たまらずに胃の中のもの  
吐き出した。

おそらくは数十体ほどの「かれら」が地面に横たわっていた。

「めぐねえ、やっぱ戻ったほうが……」

「うっ、うえっ……うっぐ、だ、大丈夫、先生だつて、何かしなきゃ」

口元を拭つて奮起する。

そう、私だけだ、私しかないのだ。

彼らを守つてあげられる大人は私しかない。

それに一番つらいのは、コレを全部やった本田くんなのだから。

「もしも何かがいたら、迷わず逃げて、立ち向かおうとしちゃ駄目」

「うん、わかつてる。武器もないしな！」

何も持つてない両手を見せびらかして笑う胡桃さんを見て、私は苦笑する。

結局の所、私こと佐倉慈は何も出来なかった。

というか、胡桃さんがほぼ全部やってくれた。机を四個積み上げて持ち上げたときは

柚村さんと一緒に呆然としたものだ。

四苦八苦しながらバリケードを3つある階段に設置すると……もう夜だった。

## 休憩終わり～ラジオ姉貴との出会いまで

オリチャー発動してもうこれチャート投げ捨てたほうがいいんじゃない？ と思うRTA、はっじまるよー。

休憩してたら夜になってますねえ!! ダイナモ感覚!! (やけくそ)

ぶっちゃけくくりつけられた紐から抜け出すことは可能ですが、最悪腰紐ルートに入るのもそれは回避しましょう(三敗)

さてはて夜になり、拠点は屋上から我らが原作厨大歓喜の生徒会室、つまりは後の学園生活部の拠点となる場所にお引越しです……まあ、RTAだから結成イベ見る前に逃げるんだけどな!!

さてはて夜になったら、まずやることは腹ごしらえです。

まあ、簡単な料理しか出来ないので職員休憩室にあったカップラーメンと屋上の野菜をぶち込んだラーメンです。

ここで注意するのは肉が入ったラーメンを出すのは止めましょう、めぐねえが泣きます。

この辺にいい、うまいラーメン(インスタント)あるらしいっすよ、食べませんか?(押

し付け) 食べましょうよ (提案) 食べる (豹変)

「わ、わかったよ! だからおしつけ、あつつう?!”

特にくるみちゃんには倍プッシュだ! の勢いで食わせましょう。

通常プレイでは覚醒素材先輩を殺しているのです、数日間飲まず食わずで倒れたなんて経験をしたプレイヤーもいるんじゃないですか? (自己体験)

まあ、今回はリーさんが覚醒しているのでそこまで追い詰めないと思いますが、通常プレイの癖がね (RTA 走者にあるまじきルーティーン)

さてはて全員が無言でラーメンを啜ってる間に、これからの予定を話しましょう。

まあ、視聴者兄貴姉貴はわかってるでしょう。

そうです、るーちゃんとラジオ姉貴の救出イベントです。ラジオ姉貴ですが……:…なん  
とこの時点でも救出可能というのが判明したため、急遽チャートにぶち込みました。

ちなみにるーちゃんは三日目の朝までに救出しないと自動的に死亡です。

あんな幼女すら容赦なく殺すとかブツダメツコラーツ!! 寝てんのかー!! と言  
いたくなりますが、サツバツな世界だからね、しょうがないね。というか原作だと交通  
事故で死んでるとかいう救いもねえ展開なので、時間制限くっつきつくても救済ルート  
を作ってくれたスタッフに感謝しましょう。GO is GOD。

ただ問題は……ラジオ姉貴救出もするから半日以上かかるんですよねえ、行き帰り

に。

帰るときはラジオ姉貴の車を使えばヘーキヘーキ。

「ツ!!! 駄目に決まってるでしょう!!」

「悠里先輩の言うとおりだよ、いくらあんたが強いからって無茶苦茶すぎる」

りーさんとチョーカー姉貴が止めますが、だから僕が往く(威風堂々)

というかこのイベントで、同行キヤラはフヨウラツ! ほぼ走って夜間移動するので道に迷ったら即座にアウトです。

「……なあ、なんでお前はそんなに自分を追い詰めるんだよ。それに今すぐ行かなくなつて」

(RTAで) 早く(終わらせるために) 助けるのは当たり前だよなあ?

それになるーちゃんもくっそ可愛いので、加入すればゆきちゃん今日は私と私でダブル精神癒やし要因だ、ができるので余裕ある人はやってどうぞ。

というかくるみちゃんがおらしすぎて調子狂いますね、いつもならシャベル振り回してゾンビ無双するのに、今回は運搬役とか原作壊れる(既に遅い)

「……ねえ、今回も私はお留守番なの? 紅葉」

当たり前だよなあ? というか、ついてこられても邪魔なんでここにおいて(切実)

バリケードは作りしましたが、見張り役がいないとめぐねえあたりがガブガブされたり

するからね（一敗）

俯くりーさんの頭を撫でておきましょう、そして必ず帰ることとるーちゃんを連れて帰ることを約束しましょう（絶対）

下手すると追いかけてきて、がぶり↓リセットなんてことがまれに起きますので幼馴染キヤラはくるみちゃん以外はちゃんと言いくるめてどうぞ。

くるみちゃんは勝手にランボーしてるんで……。

「約束、約束よ……」

ゆびぎりげんまん、嘘ついたらメガトンコインするゆびきった！

よん？？？ それじゃいくぞー！！ と窓を開けてダイブしましょう。よし忍者、鳥になって

こい。！！！！

「「「「「「「」」」」」」

全員の声にならない叫び声をバツクに、自由落下……はしません。

まず壁ギリギリで落下します、すると下の窓枠に引つかかるのでうまく着地しましょう、出来なかつたらリセットです（数敗）

校内を駆け抜けてもいいんですがこつちのほうが多いし、お手軽だし忍者っぽいので僕はこれを使ってます。

あとは件の小学校まで駆け抜けるだけなので……学校の外について、お話します。



学校の外は物資が豊富に落ちていますが、バイオハザット直後はかれらと生存者が多くいるので、危険地帯です。

なので遠征するなら最初の雨がある一週間後、安定を取るなら一ヶ月は学校に籠もりましょう。最悪武装したヒヤツハー集団に蹂躪（文字通り）されるので気をつけましょう、大体大学編で出る武闘派を思い出してください、あんなのがダース単位できます。

ただ物資、特に武器系のドロップは外のほうが優秀です。

戦闘大好きという方は、武器を現地調達しながら外で戦うと楽しいですよ（おすすめ）さて、夜の学校の外ですが当然のごとく真つ暗闇です。

ですので不意の遭遇からの噛みつかれコンボが一番の事故要因でしょう。生存者？ホバク・ジツ使えばええやん。それか「投擲」で手足のどこかに当てて首を掻っ捌けば即終了です。

マップは頭に叩き込みましょう、最適な距離を覚えておけばおそらくは深夜には小学校について、朝までにはラジオ姉貴に合流できます。

道中では適当な店によって「ラジオ」を入手しておきましょう。

そしてカチカチツと1242KHZに合わせましょう。

『……誰か、誰か聞いてない？ こちらは個人避難シエルターの……お願い聞いてたら助けて。物資を貯蔵してるからしばらく持つけど、一人はその……心細いの、誰か聞いて

てる？ ねえ……だ——』

よし！（フラグ構築完了）

ラジオを切つて、バッグの中にしましましょう。

ラジオの出番はまだもう一回だけあります。

ちなみにこの頃はまだワンワン放送局と名乗つてなかったらしく、原作での前向きな放送内容ではないため、他のキャラに聞かせるとS A N値が削れます。

ただ段々と前向きになっていくので、通常プレイでは日々前向きになるラジオ姉貴の内容に生活部メンバーが勇気付けられるという嬉しい特典があるので、ぜひ聞いてみてくださいよなあ、頼むよー。

そうこう話してうちに小学校につくう！

コンシューマ版だと学校のかれらは大人だけですが、PC版だと子供たちの死体もガツツリあるので卒業旅行編で寄つて、S A N値直葬されるというデストラップが待っているの、通常プレイでも一人で行つたほうがダメージは少ないです。

るーちゃんは小学校2Fのどこかにいますので、聞き耳をしながら探しましょう。

あつ、注意するのはかれらと戦闘しないことです。

ゆきちゃん以上にS A N値が低い彼女が頭パーンな死体なんか見たら速攻で発狂です。

姉妹揃って豆腐メンタルかよお!!

なので姿勢を低くして隠密行動です。

夜間はこちらでも視認しにくいですが、それは向こうも同じことです。

聞き耳しながら相手の位置を探って、回避もしくは暗殺して適当な空き教室に放り込みましょう。ただあんまりすぎても血に塗れるのでやるのは最悪三体までとしてください。

みいーつけたあ（某ニンジャボイス）

寝てるらしく、寝息が聞こえますねえ……空き教室の教壇の内側に丸まっててカワイイヤッター!!

そーつと教室に入って、肩を叩きます。

寝ぼけ眼をこすりながらこちらを見ると、体を震わせて胸に飛び込んできます。

「もみにーッ……!!」

ああく、ああく……（浄化される音）

通常時ならお兄ちゃんですが、りーさんと幼馴染だとなるーちゃんとも幼馴染ですので呼び方が男なら「○○にー」、女なら「○○ねー」と呼んでくれます。

ちなみに通常時でも好感度と愛情値を上げることによって上記の呼び名になるのでペド兄貴姉貴は頑張ってください。

さて幼女の柔らかかボディを堪能するのもいいですが、夜も深けて（只今午前一時）なので移動します。

当然るーちちゃんは背負いますが、ここで余ってるポイントで「運搬」レベルを取得して、残りは全部持久力にぶちこんでやるぜ!!

「運搬」は文字通り、何かを運搬するときにスタミナ消費が抑えられますので取っついて損はないです。

さてるーちちゃんですが、目をつぶっておいとねと言うのを忘れずに。

死体や凄惨な現場を見るとすぐに発狂するからね、時間も時間なので目をつぶるとこちらに体を預けて爆睡するので意外と夜救出が楽なんですよね。

こっからまたステルスと移動ですが、退屈しているであろう皆様のために……：シヨツピングモール編をお話します。

みーくん、圭ちゃん幼馴染ルート限定のルートですが学校よりも広く、おまけに物資も豊富なためクリアするだけなら学校よりも楽、ではありません。

かれらの数が多いわ、食料品がある地下は停電してるため嘔まれる危険性あるわ、原作での生存者組がいつの間にか嘔まれて圭ちゃん離脱イベントが起きるわで大変です。

ただみーくんを残して圭ちゃんと二人で旅立つ「二人きりの旅」ENDや圭ちゃんに取り残されたみーくんが女性主人公の場合、主人公を圭ちゃんだと誤認したままクリア

すると「幻想の親友」ENNや太郎丸と主人公が生き残ると出る「ローンワンダー」ENNなどなど盛りだくさんです。

んー、まだ着きませんねえ。

じゃあ気が早いですが、ラジオ姉貴についてOHANASHIします。

原作では六巻に出てきたキャラですが、おそらくは空気感染からのかれら化してしまい、我らがゴリラ、くるみ・くるみちゃんに天へと帰らされた姉貴です。

ステータス的には平凡で、特にコレと言ったスキルはありませんが、大容量のキャンピングカーと貯めに貯めた食料品が手に入るため、正直キャンピングカーのオマケみたいな扱いですが、この姉貴正気度がアホみたいに高く、どんな状況でも発狂することがほぼないと言っているほどのカチカチメンタルをしています。

そのため、現状では戦えるのが覚醒リーさんしかいない我が陣営に必要な戦闘要員といえます。

あと大人二人組にすることで、めぐねえのメンタルが劇的に快調に向かいます。

お酒もあればさらに良しといえますが、現状でもリーさんの愛情度がなんかやばい方向に行ってるため、大事を取ってお酒回収はなしだ！

……と話していたらラジオ姉貴の家に着きましたね。

はえー、おつきい（感想）。

とりあえずーちゃんを起こして、しっかりと肩につかまっているようにいいます。ここで起こさずにメガトンのーちゃん、やって主人公キアラが発狂死したやついるらしいつすよ？（一敗）

「んっ、もみにー……ちよつとにおう」

そら（かれらぶつ殺して、シャワーも浴びてないから）そうよ。

実際、このままではいけないのでラジオ姉貴のシエルター内にあるシャワーと寝床で休憩しましょう。

徹夜したせいで、主人公兄貴は限界すれすれです。……あとるーちゃん近い、近くない？！

ママエアロ、さて屋上に続く梯子を登ったら、目の前のハッチを開きます。

さらに内部に続く梯子を降りるとラジオ姉貴の住宅におじやましまくす（PINKボイス）

まあ、ここでもハッチ付きの扉がありますが不用心にも開いているのでそのまま扉をスライドします……さて。

「うわああああっ!!」

QTEで襲いかかってきたラジオ姉貴の攻撃を避けます。

なんでかって？ そらおめー何も言わずに入ってくるやつを歓迎するほどの余裕は

今のラジオ姉貴にはありません。大人の女性で美人さんだからね、男を視認したらそばつKILLするわな。

一撃避けたら、るーちゃんが泣き出すのでそれを聞いたラジオ姉貴がハツとした顔でこちらを見ると、鉄パイプを落として膝から崩れ落ちます。

泣く子にはホモもノンケもレズも勝てない、はつきりわかんだね。

「な、なんで、子供が……キミは……？」

寡黙だからいい選択肢出るかわかりませんが……おつ、「助けに来た」とかいいいセリフ来ましたねえ!!

好感度爆上げですよ、ラジオ姉貴の個別ENDはまだ確認されていないのでガシガシいい選択肢上げましょう。修羅場化しないキャラいいゾ〜これ!

「助けに来たって……キミはその……ラジオを聞いて？」

そうだよ（同意）

だから温かいシャワーとレトルトごはんください! もうスタミナゲージがイクスギイ!! イクイクイク!!と点滅してるのではよ、はよ（滝汗）

ラジオ姉貴は基本、来る者拒まずの種壺姉貴なのでよっほど非道なことをしなければ受け入れられます。

涙目のるーちゃんをホラ見ろお! ここまで一人で生き抜いたんだゾ! とうか

救済イベが難易度高すぎて壊れるわ！

「……わかった、けど変なことしないでね。女だと思って舐めたら駄目だよ」  
済まないがノンケはNG。

とりあえずシャワー、シャワー！ 温まってるかあ？

「もみにー、るーもシャワーあびる、いっしょに」

……俺、ホモちやうかもな（ロリコン並感）

とりあえず一緒にシャワーイベントで暗転するので本日はここで切りとうござい  
ます。

\*\*\*

るーはおつちよこちよいだって、りーねーともみにーによくいわれる。

おきにいりのぼうしがとんでいてめいわくをかけた。

ありさんをかんさつしてたらひがくれた。

……なきそうになりながら、いっつもりーねーやもみにーがさがしだしてくれた。

だからこんかいもっておもった。

どれくらいじかんがたったのかわからない。



せんせいたちも、きょうしつにいた私たちもみんななくなっちゃった。

なきたかったけどないてることからたべ……いなくなっただけからるーはなかなかった。

けどもうおなかもすいたし、のどもかわいた……りーねーにあいたい、もみにーにもあいたいよお。

そうおもってたらもみにーがきてくれた。

「……待たせた、るー」

「もみにーッ……!!」

どのくらいはなれてたのかわからない。

けどひさしぶりにかいだもみにーのおいはいつもよりつよくて……あんしんする。

もみにーのにおいをかぐといつも、おなかのしたあたりがきゆうーってしめつけられる。

りーねーにそうだんしたら、わらって「そう、もうちよつとしたら一緒に、ね」っていつてたけどなんだろう？

「……すまない、怖かったな。悠里も無事だ」

「うん、うんっ」

むねにかおをうずめて、いっばいいきをすう。

あたまがふわふわしてきて、あったかいきもちがあふれてくる。

もみにーがおぶつてくれて、くびすじにはなをちかづけて……からだがふるえる。

めをつぶつてろつていわれたから、めをつぶるともみにーのにおいとからだのかんしよくだけがるーをつつんでくれる。

ぎゅーつとおなかのしたがあつくなる……おしっこはしたくないのに、へんなのもじもじする。

ずつとめをつぶっていると、いつのまにかねちやつたみたいでもみにーにおこされる。

あたりはまつくらで、めのまえにはおおきなおうち？ みたいなのがあった。

「……ラジオで聞いた、ここで助けを待つものがある、と」

もみにーはやさしい、しゃべらないだけでるーのことをいちばんにかんがえてくれる。

りーねーよりも……。

「掴まっつていろ」

いわれなくてもつかまっつてる。

でもぎゅーつとみつちやくしていつぱいいきをすうのはいいよね？

もみにーがはしごをのぼつて、へんなとびらをあけて、またはしごをくだつて、そし

ておおきなとびらをひらいたとき、こわいかおをしたやつがもみにーにむかつてなにかをふりおろした。

もみにーになにかがすすって、ひょうじょうをゆがめる。

———「なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？　なんで？」

あたまにいっぱいいってなんでもおおいつくされて、るーは———「いつもどおりおおごえでないだ。」

こうするとみんなこまったかおをしてやめてくれる。

もみにーとりーねーがるーをなかまはずれにするときも、こうするともみにーがやさしいかおをしてるーにかまってくれる。

りーねーだけにもみにーはわたさない。

「な、なんで、子供が……キミは……？」

「助けに来た」

なぐつてきたやつともみにーがはなしてるとき、ないてるふりをしてそれをみる。

かみはみじかくて、おむねはりーねーよりもない、へんなかつこうしてるそれは、も

みにーにいろいろきいていた。

もみにーはうなづくだけだったけど、それはたぬいきをつくとういって。

「……正直、キミを信用するのはまだ早いと思うけど、この子に免じてシャワーとご飯、あと休息することを認めるよ」

……やっぱりーねーのいうとおりだ。

もみにーはりーねーとるーが……ううん、るーがいつしよじやなきやふらふらいつてしまう。

「シャワー浴びてきなよ、その……臭うよ?」

「もみにー、るーもシャワーあびる、いつしよに」

そういうとそれはしかめつつらをする、りーねーもこのごろそういうかおでみるけどうらやましいのかな?

だってりーねーははずかしくて、もみにーといっしよにはいれないもんね。

あそこならもみにーとふたりつきりになれる。

「……仕方ない、いくぞ」

そういつていつもみたいにおひめさまだっこしてくれるもみにーがだいすき。

……ああそうだ、みんないなくなってもどらないなら、もみにーとふたりつきりになつてもいいよね。

おかーさんもいった、るーはいもうとだからりーねーはがまんしなきゃいけないって……だからいいよね？　りーねー？

\*\*\*

私が生き残ったのは偶然と必然が重なったからだ。

売れないバンドをしていた私は、偶然実家に帰っていた。

そして父さんからも何かあつたら、別宅として確保しているシエルターに逃げろとも聞いていた。

何かなんてない、明日も明後日もバンドをやつて、そうやつて生きていく。

父さんはランダルコーポレーションに勤めていて、小さい頃はそっちにいくと周囲から思われていた。

ふざけるなど反発して出ていったのが高校卒業後。

そうして大学中退してバンドを結成したが売れずに、燻つていった頃、父さんから電話があつた。

気は済んだか？　と。

怒る気力も湧かなかつたわけではないが、勝手に飛び出した娘に電話してきてそれで

許した父さんの寛容さに気づけないほど子供では無くなった。

……あとで考えると、あのままそこで燻っていたら私は、歩く死体の仲間入りをしていただろう。

自宅に着いて、父さんの姿がなく電話したら……怒号となにかの咀嚼音が聞こえた。

『シエル、ターにいけえ!! 万が一のときに作った、大丈夫だ!! 安心しろ、父さんもす  
ぐ——』

激しい音と共に電話が繋がらなくなった。

尋常じゃない様子だと思った私は着の身着のまま、走り出した。

周囲から聞こえてくる音はヘッドホンで聞こえないふりをした……だってそうじゃない、人が人を食べてるなんてそんなの現実じゃない。

別宅は昔のままだった。

勝手に入り浸って貼ったポスター、集めていたCDの数々、そして私用の服など……ホコリを被つてないソレを見て、私は泣いた。

父さんがどうしてこんなシエルターを作ったのなんて知りたくもない。

もしも外の様子を予想していたとしたら……いや、そんなはずはない。あの人畜無害を地で行く性格の父さんがそんなことをするはずがない。

ないんだから……。

一日泣いて、起きて、それでも元に戻つてないことに絶望しながら備え付けてあった放送設備を使う。

こんなことなら緊急用の電波を知っておくべきだったと後悔する。

助けて、ここにいる、食料もあると言ったが返答はなかった。

その日はずっと起きてようと思ひ、椅子に座りながら無線機を弄る……雑音だけで何もない。

無駄だったと時計を見て思う、もう朝になるかならないかそんな時間。

ため息をついて、凝り固まった体を伸ばすと……音がした。

「ッ?!?!」

救助隊? と思ったが違う。

音からして一人だ。まさか助けに来てくれた? と思った。

嬉しさのあまり、椅子から立ち上がって、そこで気づく。

もしもそこにいるのが悪意ある人物なら? 私は女一人だ、それに物資もここには沢山ある。

一人だけなら数年は暮らしていける量……そんな場所を見つけたらどうなる?

奪われるならまだいい、もしもそれが男で悪意があつたら? そんな考えが思い浮かんでいたら、鉄パイプが見えた。

念の為、そう念の為だ……振りかぶるわけじゃない、自衛のために持つだけだ。鉄パイプを持ち、扉横で待機する。

殴るわけじゃない、そうだ警戒して何が悪い、そうだ私は悪くない。

開く扉、スローモーションのように開いたソレから出てきたのは男……そう判断した私は無我夢中で鉄パイプを振り下ろした。

だが、男はそれを避けて距離を取る。

私は外したと舌打ちをして、再度構えようとして……眼の前にいた子たちを見て、鉄パイプを落とす。

高校生くらいの男の子と小学生の女の子だった。

女の子がびっくりしたのか大声で泣いてしまった。

私は何をしようとした？ 怖がって危うく、年下の子たちを殺しかけた？

「な、なんで、子供が……キミは……？」

「助けに来た」

静かだけど、芯を持つ一言に泣きそうになる。

だけど油断はしない、まだ完全に味方だと決まったわけじゃない。

「助けに来たって……キミはその……ラジオを聞いて？」

コクリと頷いた男の子は、かばんからラジオを取り出す。



……というかあのかばん、巡々丘高校のものだけどこからかなり距離あるよね？

まるで物語の主人公みたいだよ、と思うと……その、少し臭う……いやごめん、訂正かなり臭う。

「……わかった、けど変なことしないでね。女だと思って舐めたら駄目だよ」

一応釘を刺すが、もしも本気で来られたら私は太刀打ちできないってことはわかる。

振り下ろした鉄パイプを避けて、戦う様子を見せられたら正直勝てる気がしない……それにちらりとかぼんの中身見えたけど、ナイフとかいっぱい入っていたよ。

男の子に臭うよと言うと、顔をしかめつ面にする……うーん、無表情キャラかと思っただけど意外と表情豊かかな？

シャワーを浴びてきなども伝えると、一緒に入ると言う連れてきた女の子を、慣れた手付きでお姫様抱っこするとシャワー室へと行った。

んー、あの二人知り合いかな？ 兄妹って感じじゃない……というか女の子のほうの視線が少し気になった。

……泣いてたと思った、けどなんだか大げさすぎだと思ってしまう私は疑り深いのだろうか。

「考えすぎ、だよ、ね？」

そうだが、一人ぼっちでいたから精神が疲れてしまったんだよ。

……そうだ、カレーを作ろう。美味しいものを食べれば、きっと嫌な考えも吹き飛ばさずさ。

## ドライブ〜めぐねえが犬になるまで

やっとほんへ終わったほんへが大団円で嬉しいRTA、はっじまるよー。

るーちゃんとのお風呂イベントはカットです（無慈悲）

そんなの（入れたら）パパ（CERO）に怒られちゃうだろ!! あとノンケシーンはNG（ホモの鑑）

さてはてお風呂、というかシャワーですがこれはSAN値を保つのにひじょーに重要です。

だから早めにシャワーが解禁される3階を開放するべきなんですよ（力説）

あつ、ちなみに今までの戦闘やらイベントで、プレイヤーキャラのSAN値は限界まで削れています。

SAN値を削りすぎるとゆきちゃん状態、やったねるーちゃん状態、自殺、発狂etc……など永続的なバッドステータスが付きます。なのでなるべくイイものが見つくとを祈りましょう。

今回は「精神的依存」がついてますねえ!! これは表面上は大丈夫ですが、仲間が危機に陥ったり、死んだりするとすっげー取り乱すバッドステータスです。

お前犬かよお!! ワンって言うんだよ、3回だよ3回。

寡黙で精神的依存……こいつ、メンヘラじゃな?

まあ、冗談はさておき、悪くはないです。これで「サイコパス」なんて引いた日にや、変なところでキャラが勝手に発狂したりするので通常プレイではSAN値に気をつけようね!

さて、シャワーと休憩、ご飯を食べたらお昼前くらいにはなってます。

ここでのご飯はランダムですが、主にカレーが出ることが多いですねえ! カレーいいです、体力とスタミナにバフ、さらにSAN値回復もできるので積極的に使ってくださいよう。

「それで、キミはその巡ヶ丘高校で生き残って、幼馴染であるこの子を助けるため単身突撃、それで途中でラジオ聞いて私のことを知ってここに……主人公かつ!!」

そうだよ(メタ発言)

もぐもぐカレーを食いながら頷きます。

今はラジオ姉貴の説得中です。「寡黙」で選択肢が限られますが、人肌恋しい(意味深)ラジオ姉貴は下手な選択肢を選択しなければホイホイ付いてくる優しい人です。

というか付いてきてもらわないと、チャート壊れるから114514!! というか来てクレメンス。

「……メリットは？ 私から離れるメリットを教えて頂戴」

一人ぼっちは……寂しいもんな（ANKボイス）

実際、このまま放置するとラジオ姉貴が死ぬので学校で水を飲ませないといけません。水が特効薬とかコマ？ と思うでしょうが事実なのでしょうがないね。

もう少し時間を置いたラジオ姉貴だと断られるのですが、一週間以内のラジオ姉貴なら勧誘できる、というかしろ（豹変）

「確かに一人は寂しいけど、キミの話が本当だって保証は……」

「……もみにーはうそつかない」

るーちゃんやめろオ!!（建前） ナイスウー！（本音）

「わかった、わかったよ。行くよ……とりあえずご飯食べて、あとキミ、紅葉クンは荷物を詰め込むのを手伝って頂戴。詰め込めるだけ詰め込んで行くよ」

やったぜ！（ガッツポーズ淫夢くん）

ラジオ姉貴（キャンピングカー） ゲットだぜ!!

ご飯を食べ終えたら早速準備をしましょう。持っていくのは食料品だけでOKです。水は学校の水を飲めば予防も出来てOKです。

持っていくのはカンパンとかの保存食を優先してください、あとは野菜系。肉ももう少しあとじゃないと喜ばれません、プレイヤーキャラは気にせず食べてくれますがね、

根性ねえな（無茶振り）

キャンピングカーに詰め込めるだけ詰め込んだら、運転はラジオ姉貴に頼んでるーちやんとドライブを楽しみましょう。運が悪いと生存者との戦闘もありますですがなかったの……話すネタなんかあったかなあ、先駆者兄貴たちがガン掘りしてるので解説することがんにやび……。

「……キミは……なんでそうまでして誰かを助けようとするの？」

おや、ラジオ姉貴が話しかけてきましたね。ラジオ姉貴の好感度は欲しいのでいっぱい話しますか、好感度・愛情度はマスクデータにされちゃったので先駆者兄貴みたいに確認できないのがいやーキツイっす。

それにラジオ姉貴には愛情度設定されてないでしょうし、所詮二話限りのモブじゃけえ！

さてラジオ姉貴への返答ですが……ふむ、「理由が必要か？」とかにしておきましょうか。善人RPいいゾ〜これ。

「……気が狂ってるのか、それとも底抜けに優しいのか、あるいはどっちも、かな？ 正直、キミは狂人だ。それだけははつきり言っておくよ」

原作のあなたも実際狂人だと思うんですけど（特大ブーメラン）

ああ、そうだドラアイブタイプスピード（運転）について話しておきましょうか。

基本的にめぐねえ、ラジオ姉貴が生存していれば彼女たちに運転は任せますウ。

ただこの二人が死亡、もしくは未加入の場合は主人公、もしくは学園生活部メンバーが運転することになります。

「運転」スキルを取っているとイニシャルがDなアレやワイルドな速さのアレ真つ青なカーチエイスができません。

まあ、かれらを轢き殺せませんが当然耐久力がガリンゴリンと削られて、すぐに廃車になるのでできる限り避けましょう（一敗）

ただ運転は作り込みが甘いのか、ハンドル操作がひでたるとじゅんぺい並にやべーです。

ちよつと動かすだけで、車体がすつごい動くよ！ PC版だとMODがあるのである程度制御できるらしいですが、MODの入れ方わからないです（無能先輩）

「見えたよ、学校だ！」

わーい、学校ら（TM並感）

さて、と学校が見えてきたらちよつと掃除しなきゃいけません。

先駆者兄貴たちの解説を見た皆さんならご存知でしょうが、昼間の学校はかれらがうじゃうじゃいます。見ろ、人がゴミのようだ！ と言いたくなるくらい。

真正面から突っ込んだら、ステーキ（直球）は不可避ですのでラジオ姉貴たちにはこ

こで待機してもらいましょう。

本当は下校時間過ぎたほうが楽なんです、これ以上先延ばしにするとリーさんあたりが我慢できなくなつて学校の外に出ることあるんですよねえ……（五敗）

「……やつぱりキミは狂人だよ」

ラジオ姉貴に苦笑されますが、RTAなんだからリスク背負つてタイムを大事にするのは当たり前だよなあ？

「もみにー、いかないで……っ」

るーちゃんがズボンを引つ張つて止めてきますが、すまん、本当にすまん（天狗）  
というか主人公兄貴の服のことを完全に忘れてました……ママエアロ。

ここでのーちゃんを抱きしめて、耳元で「安心しろ、必ず悠里の元に連れて行く」と約束しましょう。

そうすることでのーちゃんが快くいかせて——。

「やつ」

……いかせて——

「やーっ!!!」

行かせろオ!!!!

「リーねーとあつたらもみにーがるーとずっといっしょにいてくれないもん!!」



「ヒュー、色男だね」

ラジオ姉貴どうにかしろオ!!

どうすつべ、どうすつべ……ガチ想定外な事態置きすぎじゃないですかね（困惑）

愛情度が高いんですかねえ？ 実はあるーちゃん救出の通しプレイこれが初なんです

よねえ（RTAの屑）

……しゃーない、やりたくなかったけど強硬策に出ます（オリチャー）

まずズボンを掴んで離さないーちゃんを背中に乗せます。

続いてラジオ姉貴に頼んで紐をるーちゃんに巻いて、主人公にも同じように巻きま  
す。しっかりと巻いてください、おおう！ もつと締め付けてくれオルルアン！（ドラ

ゴン田中）

さらなるーちゃんに目隠しをしましょう。犯罪臭たつぶりですね！ どっからどう  
見ても人攫いです本当にありがとうございます。ごさいました。

「……犯罪者、かな？」

こちらをジト目で見るラジオ姉貴を無視して、ここで待機するように言います。

るーちゃん？ 説得なしになんか背中に顔埋めてめっちゃ深呼吸してるので大丈夫

でしょう、大丈夫かな？（不安）

さて、ここからは持ち物はナイフ一本だけでいいです、残りの荷物は置いていきま

しよう。

準備ができたならオリチャーについてお話しします。

元々のチャートは駐車場のかれらをぶつ殺して（直球）車を止めて、主人公が3階まで上がって、セーフゾーンからカーテンで作った紐を下におろして、るーちゃんとラジオ姉貴を引っ張り上げるといふチャートでした。

これからやるのは忍者プレイしてたときに見つけた裏技を流用したのになります。壁蹴りで2階まで登ります（真顔）

どういふこつちやと思う人いるでしょうが、実際見てもらったほうが早いと思うので見てもらいましょう。

まずは学校に入ります。

校門から玄関口までは比較的にかれらが少ないので、普通に走って突破します。

ここで注意するのは、絶対になるーちゃんをかれらに掴まれないように立ち回ることです。掴まれたら最期、QTEなしにガブリです。容赦ねえな（素の感想）

さて玄関口まで着いたら、適当なかれらを一体誘導します。

丁度いい位置についたら、そいつにめがけて助走をつけて……肩にめがけてジャンプします。そして着地と同時にさらにジャンプして玄関口の屋根へと降り立ちます。

今後、この技をジェットストリームアタックと呼称します。

忍者プレイしてるときに偶然見つけたんですよね、落下忍殺……もとい落下暗殺連続で決めたりとか遊んでたら出来たんですね。ただ仕様なのかバグなのか、「忍者」スキル持ちじゃないと出来ないの、通常プレイではやらないようにしよう！

さて成功したら、次は二階の教室に「聞き耳」をします。

今の時間帯、生前の行動をすれば一階の学食に集中していますので二階も安全つちや安全です。

ただモンスターハウスになっていることもあるので、勢いで行ったら死にます（一敗）  
「聞き耳」では教室に残ってるのは一人……一人、お昼時、教室に誰もいない……あつ（察し）

一人なら問題ないのでスルーしましょう、決して走者のリアルを思い出して同情したとかではありません。

割れた窓から教室に侵入しましょう。このとき、音を立てないようにしましょう、下手に音を立てるとかれらが寄ってきます。

ポツ——ごほん、お一人様かれらに涙しつつ、廊下に出たら静かに、それでも急いで3階に上がりましょう。

廊下にはかれらが複数人いますが、階段を上がってしまえばこちらのものです。

そのまま階段を静かに上がり、バリケードを超えたら工事……完了です。

廊下は……綺麗になってますねえ!! どうやら今日一日は掃除をしていたようです。バケツを持ってポカーンとしてるゆきちやんが出迎えてくれました。

「……忍者さん? ゆ、悠里さん、忍者さんが帰ってきたよ!!」

バケツを持ちながら走っていくゆきちやんを尻目に、るーちやんと自分を縛っていた紐をナイフで切ります。

るーちやんの目隠しを取って準備完了です、ホラ、今日からここがキミの家だよ（なお二週間後くらいには燃える模様）

「もみにー、んこって——」

「るーちゃん……ッ!」

アホみたいにすげースピードで走ってきたりーさんがるーちやんに抱きつきました。

オパーイがブルンブルンしててああ、たまらねえぜ（ノンケの屑）

ワンワン泣きながらるーちやんを抱きしめるりーさんにな、涙がで、でます……あれ? るーちゃんも「りーねー」って泣きながら抱きつくはずなんです、ふくれっ面なんです、今回のるーちやんちよつとチャートと違う、違わない? ま、まあ誤差だよ! 誤差!!

まあ、休んでる暇はないぞ忍者! 出撃だ! と牛乳飲んで爆撃しそうな悪魔なセリフを言いながら、キャラを動かしましょう。

「少しは休めよ!？」

おっ、乙女ゴリラ姉貴じゃん、オツスオツス、あのさあ、まだ救助者いるからさ、手伝ってほしいことあるねんな。

「悠r……りーさんの妹だけじゃないのかよ!？」 ああもうわかった! わかったから!!  
何すればいいんだよ!？」

おや、あだ名呼びしてますね、知らんうちに仲良くなつていいゾ〜これ。

とりあえず無事そうなカーテン全部持つてきてホラ。それをつなげてロープにするんだよ、あくしろよ。

「繋ぐ? カーテンを……ああ、そういうことか! 任せろ!」

ゴリラは賢い、はつきり分かんだね。

実際は「助ける者がいる」「カーテンだ、多く」「それを繋ぐ」程度しか、主人公兄貴は言ってます。 「寡黙」じゃなくて口下手かよお前エ!!

とりあえずカーテン集めはくるみちゃんに任せて、職員室に向かいます。

3階が安全になって、掃除も終わってる、そしてめぐねえがい……多分、アレを見てますね、コレワ。

「……こんな、の……」

先駆者兄貴が必死に燃やそうと頑張った緊急避難マニュアル読書イベントですね。

読んだキャラのS A N値直葬される悪魔のイベントですが、敢えて放置してました。なんでって？ S A N値直葬されためぐねえって可愛いじやろ？（趣味）

リカバーが大変ですが趣味とR T Aを兼用してもいいじやない、苦行なんだから（忍者）

さて、冗談はさておき、なんで燃やさずにめぐねえにマニユアルを読ませたかと言うと、刷り込みを行うためです。

めぐねえですが、ぶつちやけ無能な働き者です。覚醒するならまだしも、通常時なら自分が死のうとも生徒だったかれらを攻撃することはありません。

なのに、「大人だから頑張らなきゃ」と張り切りガールになって、勝手に行動して勝手に嘯まれることがあります。

なのである程度行動を操れるように、首輪をつけます……あつ、P C版ではワンワンプレイ（意味浅）もできるので、鬼畜兄貴姉貴はやってどうぞ。

全部読み切ったところで、わざと足音を鳴らしてめぐねえに気づいてもらいます、おまたせ。

「ヒッ……ほ、ほん、だく、ん」

ガチガチと歯を鳴らしながらへたり込むめぐねえに嗜虐心がオーバードライブしそうになりますが、我慢です。

選択肢は「何を見た？」にしましょうか。

「た、ただのマニユアルで、つです」

怯える姿がたまらねえぜ（嗜虐心100%）

このときゆつくりと距離を詰めましょう。一気にいくとめぐねえが精神崩壊を起こしてゆきちゃん化します。

「来ないで、来ないでえっ!!」

マニユアルを投げ捨てて、体を震わせながら蹲るめぐねえになったら一気に近づいて……抱きしめましょう。

安心させるようにたつぷり抱きしめてあげてください。ただ長くやりすぎて、りーさんに見つかったらリセットです（真顔）

ほーらよしよしよーし、辛かったねー、怖かったねー、大丈夫だよー。

「本田、くん、本田くん……」

トントンと背中を叩いて上げるのもいいゾ〜これ。

抱きしめて、めぐねえの体が力を抜けたのを確認したら頭を撫でてあげましょう。

「本田くん……本田くん……」

堕ちろ！ 堕ちたな！（洗脳完了）

これでめぐねえは都合のいい女になります（屑発言）

主人公の言葉に従順になりますし、勝手に行動はしなくなります。

よし、犬だよ犬、ワンって言うてみるよ（嗜虐心50%）

「ワン！」

グッボーイ、グッボーイ（嗜虐心上昇中）。

……いかんいかん危ない危ない。この動画は健全なRTA動画なんです、青少年のナニカが危ない描写はいけません！（手遅れ）

ハイライトオフツ！ なめぐねえの魔力はやべえよ、やべえよ、続きは君たちの目で確かめてみてくれ！（攻略本並感）

「……本田くん、私は駄目な先生ですよね？ でもいいんですよ？ 駄目な先生で、甘えて、溺れてもいいんですよ？ ねえ本田くん？」

おつ、やべえ（青少年保護育成条例的に）110番だな？

とりあえず頭を撫でてあげましょう。それとみんながいる前ではいつもどおりにするよう言いましょう。

「そう、よね。こんな状態見られたら困惑しちゃうわ……ああでも見せつけたって気持ちあるかも」

お前DMかよお!!???

まあ、そう仕向けたんですが（屑）

妖しく笑うめぐねえに、とりあえずマニュアルを金庫入れよう！ と提案しましよ



う。誰かが見たらS A N値直葬されるからね。

「……そう、ね。誰かが見たら大変なものね」

金庫の中にマニュアルを入れたのを見届けたら、めぐねえを撫でましょう。

こうすることで依存度が更に高くなります。

ちなみに愛情度が上がってるように見えますが、忍者兄貴と同じようにS A N値削りすぎて「精神的依存」になってるだけです。好感度は上がるだろうけど、こんなイベントで上がる好感度とかたかが知れているからヘーキヘーキ

「誰かに撫でられるのっていつ振りかしら……気持ちいい」

さて、そろそろ準備が終わると思いますが、長くなりそうなので今日はここまでです。

\*\*\*

ただの避難指示書、そう私は考えていた。

だから掃除を彼女たちに任せて、私は職員室へ向かった。

「職員室は先生が掃除します、ゆきちゃん、テストは残しておくからあとでたっぷり勉強しましょうね」

自分の発言に吐き気がする。

私は教師ではなく、汚い大人の考えから職員室に向かった。

そんなわけがない、そう考えつつも誰かと一緒に行かなかったのはそういう考えがあつたからだろう。

「なに、これ……」

書かれていたのは避難指示だった。

そう、避難指示書、今回の事件を想定されたもの。

多くの人命が危機にある時は、少数の人命の損耗を躊躇つてはならない。

その一文を読んだ時、私は胃からせり上がってくるものを我慢できずに吐き出した。

ここはどこだ？ 研究所？ 政府機関？ 大人が集まる場所？ 違う、学び舎だ。

子どもたちが将来を、今を、そして誰かと笑い合うために通う場所なのだ。

なのに人命の損耗？ 大人が書くことかと頭に血がのぼる。

だがふと冷静になった頭がこう囁く。

『知らなかった、そう知らなかった、私はこんなもの見てもないし聞いてもない。だから私のせいじゃない』

チガウ。

違う、違う、違う、違う、違う、違う、違うッ!!!

「う、うええええつ!!」

胃の中のを吐き出しきって、胃液すら絞り出すように吐いた私は荒く息を吐く。違うわけがない、ここにあったのだ、私を通い、仕事をしていた場所にこれがあった。赴任して早々に見せてくれた、そのときは止められて見なかった。

日常を過ごしていくと徐々にだが見忘れていった。そう忘れていたのだ。

誰もが忘れて、そして誰も対応しなかったからこの始末なのだ。

誰かが読んでいれば生徒たちを避難させることだって出来たかもしれない。

悠里さんに殺人をさせず、本田くん、『掃除』をしてもらうこともなく、安全な場所に避難できたかもしれない。

そう出来なかったのは誰のせい？ 誰のせいなの？

『お前だろ？ 佐倉慈、お前のせいだ』

「ふぐつ、おえつ……うつ、ううううううつ」

無様に、泣くしか出来なかった。

情けなくて、悔しくて、そして不甲斐ない自分を憎悪した。

終わりにするなら簡単にできる、そこにある窓から飛び降りればいい。

けど出来ない、いやすることは許されない。残ってる大人は私だけだ、頼りなくても、何も出来なくても、大人は私しかないのだ。

ここで逃げてしまったら、私は——私はっ。

——パリン。

えっ？

「……」

そこに立っていたのは、半裸姿の本田くんだった。

冷たい目で、私を見ている。

その視線は私の持っている—— ツツ!!!

「ヒツ……ほ、ほん、だく、ん」

何に怯えたのか、私は後ろに下がろうとしてバランスを崩して尻餅をつく。

立ち上がろうとしても力が入らない。

「何を見た？」

「た、ただのマニユアルで、っです」

苦しい言い訳なのはわかってる。

けれどそう言うしかなかった。

すると彼はゆっくりと私に近づいてくる。

情けないことに私は、取り乱して彼から距離を取るしかなかった。

泣き叫び、隠そうと思ったマニユアルすら放り投げ、拳の果てに蹲って泣くしかで

きなくなつた私。

罵声を浴びさせられるかもしれない、殺されるかもしれない、この期に及んで私は自分の保身しか考えていなかった。

けれど彼は私をゆつくりと起こすと抱きしめてくれた。

「ほん、だくん」

何も言わずに抱きしめてくれる、安心させるように。

だ、め、コレは駄目だ。

堕ちる、堕ちてしまう、私が教師ではなく、ただの弱い人間だと堕ちてしまう。

振りほどこうとしても振りほどけない、むしろ彼の包容が強くなっていく。

駄目、だめえ……。

「本田、くん、本田くん……」

まるで赤ん坊をあやすように、彼は私の背中をトントンと叩いてくれる。

ドロドロと私の理性が溶けていく。

この人になら、この人じゃなきや

(だ、めえ……)

最期の力を振り絞って離れようとする。

この人には悠里さんがいる、あんなにも慕ってくれる子がいるのに、そこに割り込む

のは駄目。

そもそも生徒と教師なのだ、私達は。

こんな世界になっても越えてはイケない一線があるのに、それなのに私は、本田くんから離れられず力を抜いてしまった。

(あつ……)

ベキンとなにかが折れた、折れてしまった。

大事なものだ、私を、佐倉慈を教師としていたものが折れてしまった。

そうなってしまったら——堕ちるしかない。

「本田くん……本田くん……」

心地が良い、折れたものなんてどうでもいい。

この人に包まれてるだけで幸せだ。

何も心配することはない、そもそも私がやったことはなんだろう？ バリケード設置

も胡桃さんの功績で、夜の見張りだってやったのは悠里さんだ。その他は全部、この人がやったこと。

何も言わなくてもこの人はやってくれる。なら任せてしまおう、大人の責任も、教師の責任も、もうどうでもいい。

私は彼に飼われよう。

「……犬、みたいだな」

「ワン！」

羞恥心はなかった。

異常な光景だろう、はたから見れば。

年下の男の子に媚びへつらつて、なんのプライドもなく撫でられる。

ううん、撫でてくれる。まるで芸が終わった犬を撫でるようにじつくりと……。

「……本田くん、私は駄目な先生ですよ？ でもいいんですよ？ 駄目な先生で、甘

えて、溺れてもいいんですよ？ ねえ本田くん？」

私は本心を口に出す。

彼にすぎりついて、犬のように頭を擦り付けながら……彼は何も言わない、けれど頭を撫でてくれる。

「……みんながいる前では教師としていろ。これは見せるな」

「そう、よね。こんな状態見られたら困惑しちゃうわ……ああでも見せつけたらいつて気持ちあるかも」

平然とそういう言葉を放つ私に頭の奥底で何かか叫ぶ。

……おそらくは残った私の『大人』の部分なのだろう。

大きな声で叫ぶそれを、私は強引にかき消して、彼の撫でる手にされるがままになる。

「そのマニュアルに何が書いてあるか、興味はない。金庫にでも隠せ」  
「……そう、ね。誰かが見たら大変なものね」

そう。誰かが見て、誰かが『犬』になってしまったら困る。

恋人にはなれない、大切な人にはなれない、だけど『犬』としてなら彼はそばに置いてくれる。

こんな何も出来なくて、誰かにすぎることしか出来ない私を受け入れてくれるのは彼だけだ。

『犬』は一匹でいい、彼に撫でられるのも、抱きしめられるのも私だけでいい、私だけがいい。

「誰かに撫でられるのっていつ振りかしら……気持ちいい」

そのまま私は目を閉じて、彼の手だけを感じる。

ああ、こんなに簡単なことだったのになのに、何故私は大人でいたのだろう。  
こっちのほうがお楽なの……。



『そ——で——私はき——し——です』  
かき消したナニカの言葉が、頭にずっと残っていた。

## ラジオ姉貴回収〜三日目終了まで

都合のいい女となったためぐねえがいるRTA、はっじまるよー。

めぐねえを存分に撫で回して、とても教師とは思えない表情にさせたのを見届けたら  
胡桃・ゴリラモンド姉貴と合流します。

言ったとおりカーテンをつなぎ合わせてロープが出来ていますねえ!!

まあ、本来のチャートだとここはリーさんに頼む予定だったんですが誤差だよ誤差!

こんな初期段階で覚醒リーさんとかそんな不安定要素組み込めるわけ無いだろ! (半  
ギレ)

「こんなのでいいか?」

おーええやん、なんぼなん? (ゴ満悦)

ちなみに道具作成ですがゆきちちゃんには絶対にさせないでください。資材を無駄に  
されます (辛辣)

めぐねえにも頼まないように、一応作成できますがクツソ出来が悪いので掴まってる  
と破けます (一敗)

さて元々のチャート通りに駐車場に、ラジオ姉貴の車を誘導するのですが学校から離

れた場所に止めてください。

カプ○ンヘリに巻き込まれて爆発炎上したら、終盤でもう気が狂うほど気が狂うつ！  
(一敗)

まずは上から駐車場を確認します、この時十体以上いれば掃除しましょう。

今回は……よし (NKNくんボイス)

五体ほどしかいません、甘ちゃんが、ペツ。

「……アタシもいけたらいいのにな」

おや？ 知らぬ間に好感度稼いでいたようで信頼イベントみたいですね。

歯噛みしながら俯く胡桃ちゃんは新鮮でいいゾ～これ。

ただ覚醒状態でないので、足手まといはNG。

んー、まあここはフオローしておきましょうか、選択肢選択肢……ろくなのがねえ!!

止めたくりますよ「寡黙」うー。

ここは「いてくれるだけでいい」にしときましょう……おっ？ ナンパかな？

「は、はあ!? おまつ、お前、からかうなよ！ それにリーさんがいるだろ!」

巨乳もいいけど普乳もいいよね (守備力高め)

顔真っ赤にしなが腕をブンブン振り回す胡桃ちゃんかあい (ホツコリ)。ただあ

の腕に当たると体力七割方持つてかれるので距離をとりましょう。シヨタだと下手す

ると全損するから気をつけよう（一敗）

「……つたく、あといつまで半裸のままなんだよ、着とけ」

おつ、ありがとナス！

やつぱりゴリラは優しいんすねえ、ワイシャツをくれました。

完全に新しいもの装備するの忘れてましたね、半裸のまま夜中全力疾走とか露出狂かな？

「気をつけろよ、何かあったら駆けつけるからさ」

そう言つて手を伸ばしてくる胡桃ちゃんの手をとらずに、握りこぶしを突き出しましよう。

「んっ、なんか映画みたいだな」

そうすると胡桃ちゃんと同じように握りこぶしを突き出して、打ち合います。

普通に手握るのもいいんですが、僕は映画みたいでこっちのほうが好きです。

さて、胡桃ちゃんとの信頼イベが終わつたら行きますよー、行きますよー1919。

昨日と同じ方法で玄関まで降りたら、校門までダツシユします。お昼過ぎなので学食と校庭に集まっているため、今現在は少ないですが、ここからはスピード勝負です。

どうしても車の音でかれらが集まつてしまうため、下手すると囲まれて詰みます（一敗）

なので信頼イベントでレベルアップしたときに取得した、スキルポイントを使って「疾走」を取りましょう。

移動速度が早くなるスキルですが、忍者と合わさってスキルレベル2並みの速度になります。

サラマンドーよりはやーい！（YY）

校門を飛び越えたら、真っ直ぐラジオ姉貴の車を確認します。

運が悪いと黒塗りの高級かれらに絡まれていますが……ヨシ！（現場猫）

周りには誰もいませんので運転席のドアを叩いて、ラジオ姉貴に作戦を伝えましょう。

「……荷物はどうする？」

んなもん後だ、後。

物資回収は夜やります、下校すれば校内はほぼかれらがいなくなるため、比較的完全に回収ができます。

とりあえずラジオ姉貴だけ安全地帯に行かせれば後はどうにでもなるんだよお!!（ガバチャー）

あと忘れないうちに車に置いてある自分のかばんは回収しましょう。ここでラジオ忘れて、後の休息のときガバツたやつ、いるらしいっすよ？（二敗）

「キミに頼り切りなのは申し訳ないけど……やるしかないか」  
そうだよ。

覚悟が決まったのを見届けたら、車に乗って出発シンコー！ イクゾー！！  
アクセルを全開にして、敷地内に突っ込みます。その際、かれらを何体轢いたか覚えておきましょう。

五体以上轢いたら「修理」スキルを取ります。チャートのラジオ姉貴の車前提で考  
えているから半壊したらリセットです。

「ついつ、たあっ!!」

駐車場にドリフトしながら停車したら、そのままドアを開けてスーパーヒーローラン  
ディングを行います。えっ？ RTA的に必要あるか？ ないです（断言）ただの趣味  
です（屑）

ただ早く行動ができるので、もたついてるラジオ姉貴が降りてくるまで残ってる五体  
を片付けましょう。

通常なら足払い↓暗殺コンボですが今回は「投擲」を取ってるため、暗殺しつつ近づ  
いてきたら「投擲」でヘッショをキメましょう。

……あれ？ 「投擲」スキルと併用するものつそい殲滅速度上がるんですがソレは。  
脳筋チャートから流用したのがまずかったのか、今後「投擲」は必ず取るようにします

(チャート変更しながら)

「映画か何かかな？」

カッコイイダルロオ!? と冗談はさておき、しっかりと車のロックを確認したらラジオ姉貴を抱えて走ります。

「運搬」と「疾走」スキル取ってるから、ぶつちやけ二人で走るより安定するんですよ。

ただ筋力上げてないのでクツソスタミナ持つてかれるけど、この後休憩するからへーキへーキ。

「ま、待った!! 恥ずかしい!! 年下の男の子に抱えられるとか待って、シャワーとか浴びてないからその、わぶっ!!」

大人のお姉さんがワタワタする様子は可愛いですが、騒ぎすぎると寄ってくる奴らが要るのでお口チャックです。

そのまま走っていると生徒会室の窓が開いて、ゴリラがロープを垂らしてくれます。

ただ音に釣られて、登っていく予定の教室からかれらが手を伸ばしてくるかもしれないので、一階の教室を確認していなかったら、即座にジェットストリームアタックで二階に上がります。

さてまずはロープが垂れてる教室ですが……よし! いねえ! ほらいくどー!!

「しっかり捕まってるー!!」

「た、頼んだよ!!」

さて適当な一体を釣って私も二階に上がりましょう。

オーライオーライ、いやっふー!! (配管工ボイス)

さて次は二階の教室ですが……ポツチくんしかいませんねえ! とうかいつまで

うつむいてるんだアイツ (困惑)

運がいいゾ、これ、オリチャーでもいけるやん。

「もうちよい! もうちよいだから!!」

「あわ、あわっわわっわっ」

可愛い (小並感)

さてワタワタするラジオ姉貴がゴリラに回収されたのを見届けたら、二階の教室に

入って帰りましょう。

オリチャーで不安でしたがなんとかまりましたね、さて教室から出て三階へ向かいま

しょう。

ぬわああああああああああああんつかれたもおおおおおおん (体力、ス

タミナレッドゾーン)

思わぬガバがありました、無事救出完了です……。



この後、夜中の回収に備えて休息を行いましょ。

「忍者さんおかえり！」

「……マジで忍者なんだな」

ゆきちゃんとかとチョーカー姉貴出迎へご苦労！でも余裕ないから休ませて（気絶す前）

フラフラと体を揺らしながら、生徒会室に入ります。

ドサリと床に座り込んで、バッグからラジオを出しましょう。

偉大なる先駆者様の動画を見てる方ならご存知でしょうが、クラシック鑑賞会と参りましょう。

休息と合わせて体力・スタミナの回復速度が上昇します。さらに時間が経てば音につられて学園生活部など生存者が来ますので好感度も上がって、うん美味しい！

さあ、みんな114514!!

「……………」

——静かな曲だ、疲れ切った心と身体が癒やされるような気がする

いやメッセージはいいねん、誰か来て！早く！ねえ誰か！

「……………」

——音楽室があつたな、周囲の安全が確保出来たら演奏をやってもいいかもしれ

ない

いや、あの……あのお!?

「……………」

——スシが食べたい、まぐ……いやタマゴだな

……（攻略wikiチラ見）

「……………」

——スベシ、コロスベシ

はえー、全員生存ルートさらに開拓されてる。あつ、シヨツピングモールルートもあんじゃん。隠しキャラルートもあーいっすねえ!!（wikiガン見）

「……………」

——そろそろ休息もいだろう、さあガンバルゾー!!

おつ、そうだな（白目）

えー、第一回音楽鑑賞会でしたが、えー参加者は……誰一人来ませんでした（無職ボイス）

どうしてっ！ なんでこうなるのよっ！ なんでっ！ なんでっ！ こんなのっ！

どうしようもっ！ ないじゃないっ！（りーさんボイス）

何てことだ……君の罪（ガバチャー）は止まらない、加速する……っ！（AINボイ

ス)

おかしい、本来なら全員集合、クラシック鑑賞しながら自己紹介の流れだったんですがどうしましょ……ま、まあ極稀に來ないってwikiにあつたしそれを引いたんでしよう(樂觀視)

さて休息が終わりましたら物資回収タイムです。

外を見て、完全に暗闇になっていることを確認してから回収メンバーに声をかけましょう。

覚醒りーさん！ 胡桃ちゃん！ ラジオ姉貴！ イクゾお!!

本当は胡桃ゴリラ姉貴とラジオ姉貴と主人公の三人なのですが、今回は覚醒りーさんにも働いてもらいましょう……というか放置気味だからここいらで頼っておかないと暴走しちゃう(震え声)

「わかったわ……ゆきちちゃん、るーちゃんをお願いできる?」

「はぁーい! るーちゃん、お姉ちゃんと一緒に待つてようか」

「……ゆきだけじゃ不安だ、私も見ておくよ」

「わ、私に任せないのっ!」

るーちゃんがふくれっ面でこちらに抱きつこうとしますが、ゆきちちゃんとチョーカー姉貴にドナドナされていきますねえ! あとスルーされたためぐねえが涙目になってま

すねえ。

「にしてもこの人数で大丈夫かな？ 外は結構いたけど……」

「駄目だったら陽動とか考えないとだな……ですネ」

「いいよ、タメ口で。こんな状況で歳もなにもないし、自然体で接してくれたほうが私もありがたいかな」

ヤダ、イケメン……とラジオ姉貴と胡桃ちゃんの会話を聞きつつ、いぎ鎌倉（出発）

ちなみに夜中回収しに行くことによつて、夜にかれらが少なくなることも認知して♡  
が出来て一石二鳥です。

ただ油断されても困るので、三人には懐中電灯を渡しておきましょう。暗闇から出てきてガブリなんて事になったらリセットです。あと三人には運搬用のかばんも渡しておきましょう。

「……アイツら少くないか？」

「もしかして帰宅時間だから帰った、とかではないよ……ね？」

「わからないわ、けど油断せずにいきましょう」

よし！（フラグ完了）

とりあえずメイン火力要員に「夜は少なくなるかも……？」と思わせておけばOKです。

あとは何日かすれば自分たちで調べてわかってくれます。

主人公が言ってもいいですが、余計なこと喋りすぎて「さてはオメー黒幕だな？」と思われたらリセット案件ですので気をつけましょう。

無事に駐車場まで着いたら、ドゥンドゥン荷物を運び出しましょう。

ただ二人一組で、一人ずつ勝手に行かせたら嘯まれたことがあるのでここは安定チャートでいきましょう。

「ふんぬらばっ！」

「……ええ……？」

ゴリラがかばん三つ装備してるんですがこれは……やべえな（素）

いつもはシャベルがあるので、一つか二つなんですけど物資回収チャートではくるみちゃんにシャベル渡さずに運搬役に徹してもらったほうが早いかもしれませぬね！

いやでも初期くるみちゃんはシャベルに依存してるので下手したらSAN値直葬されるかも。まあ、この走りが終わったら検証しましょう。

さて予想外なゴリラの力で早々と終わりそうなので、倍速をかけましょう。

〜少年少女運搬中〜

「こんなに……よく貯蔵してましたね」

「父さんが昔から集めてたんだ、ウチにまだあるからまた持つてくるよ」

(序盤にしては) 膨大な物資に、メスイ……めぐねえ含めて目を輝かしています。

実際、一週間くらいは持つ程度には運んだので当面はバリケード強化などに力を入れられるのが、ラジオ姉貴回収チャートの強みですねえ。

さてここはドバーツと食料を使って豪華な食事をしましょう。

と言つてもレトルトですが、ここ二日間まともに飯を食べてない生活部メンバー、チョーカー姉貴、るーちゃん、そして人肌(意味深)に飢えていたラジオ姉貴は涙を流しながら食べます。

「う、ううう……」

「美味しい、美味しいよお」

「ぐすつ、ぐす……るーちゃん、食べたいものあつたら言つてね、お姉ちゃんが取つてあげる」

「もみにー、それとつて」

「たかえちちゃん、あーん」

「ばかつ、やめろつて! 恥ずかしいから!」

「誰かと一緒に食べるつてこんなにいいものなんだね」

「なんか……温かい!」

心温まるイベントですねえ、見飽きてるけど(屑発言)

腹いっぱい食べたら、今日の見張りの話になります。

「数が少ないけど、一応いるよなあ」

「なら私が行くよ、新参者だ。それにこんなときくらいは大人をさせてくれよ」

「わ、私もいきます!!」

「おや、ラジオ姉貴はチャート通りでしたが、めぐねえもですか、大丈夫？ ナデナデする？」

「そ、それは朝にしてくれたら嬉しいかなあつて……ご褒美、くれますか？」

紅潮した顔で見るのは、いやマズイつすよ（BPO案件）

「というかなんか精神的依存とは違う？ 違うくない？ んー？ んー、まあいいか、可

愛いめぐねえ見れるし、セーフセーフ。

「とりあえずめぐねえを撫でたら、寢室（生徒会室）に向かいましょう。」

さてあとは寝袋に包まって寝るだけです……。

「もみにー、いっしょにねよ？」

ああ〜~~~~~~~~。パパになるう！

「るーちゃんの愛情度が高いと発生する添い寝イベントです。SAN値が回復する嬉しいイベントですなえ！」

ちなみにこれを見た後にるーちゃんが死亡すると主人公が「るーちゃん（人形）」と添

い寝する幻覚イベントを発生させるので、絶対に死なせないようにしましょう（厳命）。周りのS A N値も減少するからね、しようがないね。

たまにりーさんも乱入する通称姉妹丼も発生するのですが、今回は遠慮してもう寝てますねえ、相変わらず恐ろしいほど寝付きがいいつすねえ。

周りも温かい目で見えていますので、寝袋に包まってそのまま寝ましょう。

それでは今回はキリが良いのでここまでにいたしとうございます。

\*\*\*

「……静かだね」

「そう、ですな」

月明かりだけが二人を照らしていた。

静か、そう静かだ。

時折唸り声が聞こえるが、それ以外は何も聞こえない。

「……佐倉、センサーだったつけ」

「佐倉で、いいですよ。姫美那（きみな） 貴桜（きお）さん」

「んじゃ佐倉さんでいいか」



姫美那は苦笑しながら、慈の肩を叩く。

対する慈も苦笑しつつも外を見る。

黒一色、電灯も何もついていない外を見てため息をつく。

「……生存者は、いないんでしょうか？」

「わからない、わからないけど今は生きてることを喜ぼうよ。この先がどうなるかはわからないけど、さ」

姫美那もため息をつく。

どうなるのかわからないのは確かだ。

ラジオ設備は送信も受信も出来た、最初の方は聞こえてた避難指示、政府の連絡なども2日でほぼすべて途絶えた。あるのは自動送信の音声のみ。

今、生きているのも奇跡のようなものだとわかっている。

「なるようになるしかないよ、なんせこっちは忍者がいるんだから」

「そう、ですね。彼ならどうにかしてくれませう」

その時、姫美那は足を止めた。

慈も足を止め、振り返らずにじっと黙っている。

「……彼、紅葉くんに頼り切るのは駄目だよ。限界すれすれだ」

姫美那はそう断言する。

音楽が聞こえた、そう救出されてすぐ、水で喉を潤していた姫美那の耳にクラシックが聞こえてきた。

ラジオ音源で音質は悪かったが、落ち着いたテンポの音楽は心をたしかに癒やしてくれた。

姫美那を含めた生存者たちが集まって、音がなんなのか確かめようとして……扉を静かに閉めた。

「体はそうじゃなくても、心はポロポロなんだ」

静かに、身動き一つせずラジオの前で膝を抱えていた紅葉がいた。

その表情は何もなかった、そう何も浮かんでいなかったのだ。

ただじつとラジオを聞いている姿だけだったのに、誰もがその部屋に入ろうとせず紅葉が出てくるまで待っていた。

「確かに私達は紅葉くんに救われたよ？ でも、私達は大人なんだ、だから——」

「だから、なんです？」

ゾクリと姫美那の体が震えた。

振り返った慈の顔には笑顔があった、ただその笑顔が空虚なものに見えたのは見間違いだろうか？

たった数時間しか経っていないが、姫美那から見た慈は「良い人そうなおつちよこ

ちよい」だった。とてもじゃないがこんな表情をする人だとは思えなかった。

「なんなんですか？ 彼が任せると言っただけです、なら任せればいいじゃないですか」

「ツ!! それでも、それでもキミは——」

「ええ、教師、でしたよ」

寂しげに、それでいてなぜか清々するような声色でそう言った慈は顔を赤らめる。

「大人で、教師で、私が頑張らなきゃって思っていました」

「ならっ!!」

「でも彼は言わないけど赦してくれました、こんな教師にも大人にもなりきれなかった私を、赦してくれたんです」

ニコリと顔を赤らめながら慈はそう言っただけで体を震わせる。

今でも思い出せる、抱きしめられたときの感触、硬かった胸板、彼の匂い、音、目、手付き……ああ、なんて素晴らしかったんだと。

「ツツツツ」

「羨ましいですか？」

慈は臆面もなく言う。

「姫美那は何か言おうとして口を必死に動かすが、何も言えずに項垂れる。」

「……ああ、彼のせいじゃない、私が悪いんです。何も出来ず、生徒たちにやらせてし

まった、こんなダメなやつを、彼は、紅葉くんは赦してくれた。だから、いいんです」  
「……おかしいよ」

絞り出すように言う言葉に、慈は頷く。

「おかしいですよね、でも紅葉くんが赦してくれたからいいんですよ」

「キミはっ!! キミはっ……っ~~~~~」  
「!!!」

声にならない叫び声が木霊する。

姫美那はガクリと膝をつく。慈はいつもと変わらぬ笑みで近づき、手を差し伸ばす。

「それでいいんです、あなたはそれで。私は……もう駄目なんです」

「……………」

力なく項垂れる姫美那は手を伸ばそうとしない。

慈は月明かりを見上げながら、目を細める。

「早く朝にならないかな」

\*\*\*

彼とるーちゃん、ゆきちゃんと柚村の寝息が聞こえたとき、私は隣で寝ているフリをしている胡桃を見る。

彼女は頷きながら、そっと寝袋から出る。

私も同じように起こさないように出て、部屋の外へと出て適当な教室に入る。

「……」

「……」

二人して黙ってしまふ。

ポツリと胡桃が言った。

「シヤベル、貸してくれないか？」

視線が注がれるのは、私の手の中にあるシヤベル。

彼女の、大事な人を殺してしまったその凶器。

それを貸せと彼女は言う。

「りーさん頼むよ」

「なんで？」

理由なんて言わなくてもわかっている。

私より彼女のほうが身体能力は上だ。それに彼についていけるのもおそらく彼女だけだろう。

「確かにりーさんは、その、先輩を……あいつらを殺した経験がある。だからシヤベルを持つのはりーさんのほうがいい、けどあたしのほうが——」

「嫌よ」

はつきりと言う。

嫌、そう嫌なのだ。

だって、そうしたら……彼の隣に立つのは胡桃になつてしまう。

「ツ!! りーさん、紅葉が好きなのはわかつてる!! けどこれ以上アイツに負担はかけられない! 見ただろ? あいつ、あんなに心がボロボロなのにまだ動こうとしてるんだ、あたしたちを守るために! なら、運動部だったあたしが動けたほうが負担は減る!」

「……だとしても、嫌よ」

醜い嫉妬心だと笑われるかもしれない、だけどそれだけじゃない。

嫌なのだ、天真爛漫に笑う胡桃が血に塗れる姿を見るのは。

「嫌なの……胡桃、人を殺す瞬間ってわかる?」

「そんなの——」

「わからない、ううん、わからなくていいの」

無我夢中だった、嫌悪感があった、彼以外に触れられなくなかった。

その結果、私は一人の人を殺した、殺してしまった。

殴った感触、飛び散った血しぶき、泣き叫ぶ胡桃、どれも今にして思えば後悔しかな

い。

「胡桃、実はね……私、もう一人殺したの」

「えっ……？」

そう、紅葉がるーちゃんを助けに行った夜、巡回してた時に一人、バリケードにしがみついていたのを見つけた。

だから殴った、バリケードが破られたらどうなるか思いたくもなくて。

シヤベルを抱えて、一突きした。

尖った先がソレの頭部を貫いて、力なく後ろに倒れて、そして階段を転がっていった。

「……その時、どう思ったと思う？」

「どう、って」

「ああ、安心したって思ったのよ」

包み隠すこと無く、胡桃にそう言う。

安心した、安心してしまった。

人を、変わってしまったとしても人を一人殺して安心してしまった。

「四肢がね投げ出されて、動くことないの。……それを見て、安心してしまったのよっ」

「でも、それは……」

「仕方なかった、じゃああなたの先輩を殺したのも仕方なかったの？」

胡桃の表情が変わる。

真つ赤になつていき、口を開こうとして——我慢するやうにうつむいて、拳を握つた。

「違うわよね？　そういうことよ、誰かを殺すつていうのはその気持ちを誰かにさせてしまつてことなの」

「……だから、だからつて、だからつてッ!!」

「……紅葉の苦しみは想像がつかないわ」

ギユツとシャベルを握りしめてそう言う。

私達を助けるためとはいえ、何人のかれらを彼は殺したのか想像もつかない。

仕方なかった、この一言ですべて解決するなら、彼があんな表情をしながら膝を抱えるわけがない。

……もう遅いのもしれない、けれど私は——。

「私は、彼と一緒に地獄に落ちるわ、生きるために」

「りーさん……」

胡桃が顔を上げると涙がこぼれていた。

私はそれを隠すやうに抱きしめる。

「いいの、だから胡桃は今まで通りみんなの役に立つて、彼と私がかれらからあなたたち



を守るから」

「りー……さんっ!!」

ぎゅうつと抱きしめながら、声を押し殺して泣く胡桃の頭を撫でる。

そう、それでいいのよ胡桃……あなたは優しいまま——彼と私とるーちゃんのためには動けばいい。

「りーさん、ごめん、ごめん……もみじい、ごめんよおっ!!」

「大丈夫、大丈夫よ——だから胡桃、これからもお願いね」

友情を感じてないわけじゃない、胡桃は大切な友人で生き残った仲間なのは間違いない。

だけどそれまででしかない。

もしもこの先、彼の隣に立とうとするなら……そう、ね。

「きつと先輩さんも見てるわ」

「うん……うんっ」

彼と同じ死に方がいいかしら、愛する二人はいつも一緒……ねっ、胡桃。

そういうえば今日来た人、紅葉にお姫様抱っこされてたけどどうしたことなのかしらね。

そして佐倉先生……はもう少し様子を見ましよう、もしも、もしも思ったとおりなら

その時は――。

「リーさん、リーさんっ」

「大丈夫よ、胡桃……だからね」

オネガイダカラ、ワタシヲクルワセナイデ。